

大学における統計教育の実状

(実態調査)

内 田 良 男

(1965年3月受付)

Education of Statistics in Japan —Survey in Universities and Colleges—

Utida Yosio

There are two hundreds and sixty universities in Japan, which is the general term of universities and colleges, and ninety five universities include the graduate schools. Classifying these universities by the establishers, National is seventy two, Public is thirty four and Private is one hundred and fifty four. In these universities STATISTICAL EDUCATION are conducted in every Faculty and in every Department. To know what is Statistical Education in these Higher Educational Institutes can be hoped for.

In 1964, a survey of almost all Statistical Lectures has been conducted and the result is reported here.

Institute of Statistical Mathematics

目 次

1. 緒 論	2.3 授業対象
1.1 緒 言	2.4 授業時間数
1.2 調査経過	2.5 教科書と副読本
1.3 大学群の設定	結 語
2. 本 論	表
2.1 大学における授業	資 料
2.2 授業担当者	

1. 緒 論

1.1 緒 言

最近、統計教育に関する問題が統計学者の間で論ぜられている。この問題は近頃はじめて起

注 [表(末尾)] とあるのは、その[表]を末尾[表]に掲げたことを意味する。

こったのではなく、これまでにいく度かくり返し論ぜられたのであるが、未だに解決されていない。

この問題の一つは、統計専門家や統計研究者を育成する大学における統計教育はいかにあるべきかということである。この“いかにあるべきか”の問題を真正面から解決しようとするならば、必然的に“統計学とは”の問題に直面することになる。

現在、大学では理学、工学、農学、医学、文学、経済学などの諸学部において統計教育が行なわれている。実際的には、それらの教育がどのようになっているか、その実状を把握しておくことが必要と思われる。ただ、事実を把握することが、問題を本質的に解決する道とは思われない。しかし、理想を求め、事実を踏まえ、現実在即した実際案を打ち立てて、はじめて問題の実際の解決がえられるものと思われる。

このような大きな問題を解決するために行なう実状調査は、簡単なものでは容易にすまされないのは当然である。われわれは、とりあえずその手初めとして、現在大学で行なわれている統計に関する授業について、授業担当者、授業形態、授業時間数、受講者、教授内容、教科書などがどのようになっているかについて調査することにした。

さきにも述べたように、統計教育は殆んどすべての学部で行なわれているが、どの学部の授業にも共通するものに数理統計学がある。勿論この名称は、授業科目名として必ずしも表面に表われていない。数理統計学を確率論の応用と考えられるように、それは数学に関係深いものである。このような事情から統計学と数学とはきわめて深い関係にある。そこでわれわれは、この調査を行なうさい、大学における数学専門教育の実状に関する調査と並行させてみた。ここにその理由の一端について述べておこう。

統計専門職員として国家公務員になろうとする者は、国家公務員採用試験における専門試験に合格することが必要である。再三の改称を重ねて、現在では専門区分として「数学」の名称となっているが、この試験制度制定のさいには統計専門職員採用の窓口とされたのである。この点は「数学」と改称されている現在でも変わりはない。これまでに、その数こそ少ないが、大学において経済学など数学以外の専門学科を履修した者も合格している。ただし経済学など数学以外の専門学科を履修した者には、各専門学科にほぼ対応して設けられた専門区分（たとえば経済学）で試験に合格すれば、本来の専門職にはもちろん、統計専門の職にもたずさわる道がひらけている。ところで最近、電子計算機の発達と普及の援けもあって、数理解析を専門とする国家公務員の必要度が高まってきたため、大学において数学を専攻した者の需要がとみに増加してきた。このような必要に応じて、従来、数学専攻者に開かれていた實際上唯一の国家公務員への窓口を、改称して「数学」としたのである。このような事情があって、この試験区分「数学」は二つの専門を含んでいるのである。

国家公務員採用上級試験の受験資格からみれば、大学卒業者はどの学部、どの学科を専攻していようと試験区分「数学(統計系統)」の試験を受験できるのである。この試験の出題分野(範囲)は、試験の公報に明らかにされているが、出題分野をどこに限定するか、どの程度の問題とすべきかは、この試験区分「数学(統計系統)」のねらいに照して、試験の適格さをきめる重要な鍵となっている。大学における統計教育の実状調査に、国家公務員採用試験の当事者である人事院、特に任用局試験第二課が大きな関心を寄せられるのは当然である。

このような事情と、さきにのべたように統計学と数学とは深いつながりがあるという事情とが相まって、統計教育に関する調査と数学専門教育に関する調査とを並行して行なうこととした。この調査のおよその経過についてつぎにのべておく。

1. 2 調査経過

この調査は大学における数学専門教育の実状に関する調査と並行させて行なったものである。統計は数学と深い関連があるから、調査を受ける大学側に二重の手数がかかることは必然的であった。これら二つの実状調査は調査事項をほとんど同様（調査カードは全く同じ）に構成したので、調査を受ける大学側の二重手間を避けるために、つぎの措置をとった。

数学教育の実状調査で対象とした理学部数学科、文理学部理学科などは統計教育の実状調査では一応除外し、集計のさいに前者の調査のうち統計に関する授業を後者にとり入れて、統計教育の実状調査をまとめあげた。ただ、数学専門教育の調査では専門科目のみを対象としたのに対し、統計教育の調査では、それだけでなく、教養科目も対象とした。このために上記の学部・学科における教養科目としての統計に関する授業科目が欠けたきらいがある。

また、国公立、私立大学を対象としたこの調査（統計教育の実状）は2回に分けて行なった。国立大学に対する調査は昭和39年2月に始めたが、公立および私立の大学に対する調査を始めたのは昭和39年5月である。

国立大学に対する調査では、国立大学の講座および学科目調（昭和37年5月1日現在、文部省学術局大学課）を用いて調査対象となる授業科目を選定・指定し、回答を求めた。ここで選定した授業科目は官制上・形式上のものなので、実際の授業内容からみれば対象として不適格なものがないとはいきれないものである。そこで、この調査では調査関係書類（3.資料参照）を一括して大学長へ照会した。大学長は各学部長へ照会する方式であって、各学部でははじめに教務担当者が調査対象に該当する授業を確認し、各授業に1枚の調査票（カード形式）を対応させ、授業科目、授業担当教官、授業時間数、受講者に関する事項を記入し、その上で各授業担当教官が授業内容などについて記入する。このような手順になっている。この手順については各大学長、各学部長への照会状に明記した。

公立および私立大学に対する調査では、はじめに各大学の授業状況を把握することにした。このために、各大学に学生便覧、時間割、大学要覧（昭和38年度、昭和39年度分）の寄贈を文書（昭和39年4月15日付）をもって依頼した。これらの資料を4月30日ごろまでに郵送してもらうように依頼したが、集まりの状況は必ずしもかんばしくなかったもので、督促状（5月11日付）を出す一方、資料寄贈をうけた各大学から順次に調査を実施した。各大学の資料をみて、対象となる授業科目を選定し、調査関係書を一括して大学長へ照会した。照会方法などは国立の場合と全く同様であった。およその経過をつぎに示しておく。

(1) 国立大学に対する調査

大学長あて照会状（調査関係書類一切を含む）を昭和39年2月14日付で初めて発送した。回答期限を3月15日ごろとしたところ、最初の回答（カード）が2月29日に到着したが、これは1校からであった。回答期限経過ほぼ2週間の3月27日に督促状を出した。約5日ごとにまとめて回答状態を示すとつぎのとおりであった。

(2) 公立および私立大学に対する調査

大学長あての資料寄贈依頼状を昭和39年4月15日付で発送し、また督促状を5月11日付で発送した。大学長あての照会状（調査関係書類一切を含む）は、資料の寄贈を受け次第対象授業を選定し、直ちに発送した。各大学の資料が落手した時期が不ぞろいであったので、学長あて照会状の発送時期もまたまちまちであった。資料と調査回答の落手状況はつぎのとおりであった。

回収状況

期 間	大 学 数
2.29~3.5	1
3.6 ~3.10	2
3.11~3.15	3
3.16~3.20	16
3.21~3.25	14
3.26~3.30	7
3.31~4.4	5
4.5 ~4.9	5
4.10~4.14	2
4.15~	6
計	61

なお、国立大学72校中、東京外国語大学、東京芸術大学、大阪外国語大学は調査対象からはずしたので調査大学数は69大学である。このうちの61大学から回答を得た。

資料回収状況

期 間	大 学 数
4.18~4.22	25
4.23~4.27	22
4.28~5.2	13
5.3 ~5.7	5
5.8 ~5.12	6
5.13~5.17	5
5.18~5.22	25
5.22~5.27	8
5.28~	8
計	117

調査票（カード）回収状況

期 間	大 学 数
5.18~5.22	8
5.23~5.27	11
5.28~6.1	10
6.2 ~6.6	7
6.7 ~6.11	4
6.12~6.16	6
6.17~6.21	4
6.22~6.26	4
6.27~7.1	2
7.2 ~7.6	4
7.7 ~	33
計	93

なお、公立大学、私立大学の調査校数は全公、私立大学198校中、155校である。このうちの93大学から回答をえた。これらの内訳として、どのような大学から、どのような学部から回答（各授業科目に1校の調査カードが対応している）がえられたか、これらについては次節の終りにのべる。

1.3 大学群の設定

全国の大学を形式（これが性格に関連するのである）によって数群に分けたが、国立大学については、つぎのようにして7群に分けた。

大学におかれたすべての学部を教育、学芸、理、工、農、医、経済、文、その他の9学部に分類した。この分類のための学部を通常の学部と区別するために〔教育〕のように〔 〕を用いて示すことにする。この分類では、教養学部や文理学部は〔学芸〕に含め、基礎工学部や繊維工学部、理工学部は〔工学〕に含め、獣医学部、水産学部、水畜産学部、園芸学部は〔農学〕に含め、薬学部、歯学部は〔医学〕に含め、政経学部、法経学部、経営学部、商学部は〔経済〕に含め、法学部、法文学部、人文学部は〔文学〕に含めた。〔その他〕は家政学部、体育学部などである。各〔学部〕の詳しい内容はつぎのとおりである。

- 〔教育〕 一般教育学科, 数学科, 教育学科, 教育心理学科, 学校教育学科, その他
- 〔学芸〕 一般教育学科, 理学科 (数学, 化学, 生物学, 学校教育, 理学), 文学科 (心理学, 社会学), その他 (経済学など)
- 〔理学〕 一般教育学科, 数学科, 物理学科, 天文学科, 地球物理学科, 地理学科, 化学科, 地質学科, 鉱物学科, 生物学科 (動物, 植物), 人類学科, その他
- 〔工学〕 一般教育学科, 基礎工学科, 計測工学科, 応用理学科, 電気工学科, 機械工学科, 工業経営学科, 応用化学科, その他 (鉱山学, 冶金学, 建築学, 土木学など)
- 〔農学〕 一般教育学科, 農学科, 農芸化学科, 林学科, 水産学科 (漁業学), 畜産学科 (獣医学), 農業工学科, 農業経済学科, その他 (園芸学, 蚕糸学など)
- 〔医学〕 一般教育学科, 医学科, 薬学科, 歯学科, 公衆衛生学科, その他
- 〔経済〕 一般教育学科, 経営学科, 経済学科, 商業学科, その他
- 〔文学〕 一般教育学科, 史学科, 哲学科, 社会科学科 (社会学, 心理学), 文学科, その他 (経済学, 法学など)
- 〔その他〕 一般教育学科, 体育学科, 家政学科, その他

各大学が, これらの〔学部〕のうちのどの学部をもつかについて, すべての大学をつぎの規準によって7つの大学群に分類した.

U₁……〔学芸〕, 〔その他〕以外の全学部, すなわち〔教育〕, 〔理学〕, 〔工学〕, 〔農学〕, 〔医学〕, 〔経済〕, 〔文学〕の7〔学部〕を備え, それらすべてに大学院をおいた大学. 〔例外〕東京大学には〔学芸〕もある. 大阪大学には〔教育〕, 〔農学〕がない. 広島大学には〔農学〕に大学院がない.

U₂……〔学芸〕, 〔理学〕のいずれかをおき, 〔工学〕をおく. 〔農学〕, 〔医学〕, 〔経済〕, 〔文学〕のうち少なくとも2つの〔学部〕がない. このような大学.

U₃……〔学芸〕, 〔工学〕があり〔理学〕がなく, 〔学芸〕, 〔工学〕のほかには高々一つの〔学部〕しかない大学.

U₄……〔学芸〕があり, 〔理学〕, 〔工学〕がない大学.

U₅……〔学芸〕だけの大学. 〔例外〕島根大学には〔教育〕がある.

U₆……〔工学〕だけの大学. 〔例外〕東京農工大学には〔農学〕がある.

U₇……単科大学の群で, 農学関係だけ, 医学関係だけ, 経済学関係だけ, 商船関係だけの大学と女子大学.

以上のべた規準を一覧表にすればつぎのとおりである.

表 1 大学群の設定規準一覧

注 ○印学部, ☆印大学院, △一部大学にあり

〔学 部〕 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 学	そ 他	備 考
U ₁	○ ☆		○ ☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆		総合大学 (7〔学部〕), すべてに大学院
U ₂	△	△	△	○	△	○ ☆	△	△		
U ₃	△	○		○	△		△	△		
U ₄	△	○			△	△	△			
U ₅	△	○								学芸大学
U ₆				○	△					単科大学
U ₇					△	△	△		△	単科大学

この規準によって分けられた結果は、概ねつぎのとおりである。U₁は7学部の総合大学の群で旧帝大はすべてここに属している。旧高等学校を母体とした大学はU₂, U₃, U₄のいずれかに属し、U₂は〔工学〕,〔医学〕をおく大学、U₃は〔工学〕をおくが〔医学〕をおかない大学、U₄は〔工学〕をおかない大学の群である。U₅は旧師範学校を母体とする学芸大学の群である。U₆は〔工学〕の単科大学の群である。U₇はU₁~U₆以外の大学の群であるが、その内訳は〔農学〕,〔医学〕,〔経済〕,〔その他〕の単科大学がそれぞれ2, 1, 2, 1大学とそのほかの2大学とである。

これらの大学群間の比較を行なうために群別の統計を出したが、U₇は全く性格の違う大学の集まりであるから、U₇群単独の統計は殆んど意味がなく、またU₇群と他の大学群との比較も殆んど意味がない。それ故に以下に掲げる大学群別の統計ではU₇群のものを表面に出さない。

国立大学については以上のように7群に分けたが、公立大学と私立大学については群分けを行わず、そのままとした。これによる大学群は国立大学(細かくは7群)、公立大学、および私立大学である。後で示すように国立大学の授業は、7群に分けてしまうと、各群では僅少となるから、あらためて群を合併して統計を求めることとした。諸種の統計は、原則として国立大学、私立大学およびU₁群、U₂~U₃合併群、U₄~U₅合併群、U₆群について求めることとし、これらの群にまとめてもなお授業数が僅少の群については統計数字を示さないこととした。

この調査で対象となった群別、〔学部〕別の大学数、学部数およびそれらのうちで回答をよせた大学と学部の数を表にまとめ()印をつけて示した。〔表2(末尾)〕,〔表3〕また、実際にはどのような名称の学部を各〔学部〕に繰り入れたかを〔表2〕の注に示した。大学によっては、大学におかれた〔学部〕の一部しか回答をよせなかった。このような場合、その大学は回答をよせなかったわけでないから回答校の数に繰り入れることにした。〔表2〕における公立、私立両大学の左方の欄では、大学数は1つ以上の学部について回答をよせた大学の数である。〔学部〕別大学数は1つ以上の学部について回答をさせた大学のうち、各〔学部〕をもつ大

表3 大学群別、該当〔学部〕数と回答〔学部〕数——()内回答をよせた〔学部〕数

〔学 部〕		教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 学	その他
大学群	私 立	1 (1)	5 (5)	6 (4)	23 (17)	4 (3)	18 (14)	48 (40)	38 (12)	16 (9)
	公 立	—	2 (2)	2 (2)	4 (2)	3 (2)	11 (10)	9 (7)	5 (2)	6 (3)
	国 立	27 (18)	41 (37)	16 (16)	42 (28)	35 (26)	32 (11)	23 (18)	24 (17)	5 (2)
	U ₁	7 (6)	1 (1)	8 (8)	9 (6)	9 (9)	11 (4)	8 (8)	15 (4)	—
	U ₂	8 (4)	6 (6)	4 (4)	11 (7)	6 (5)	14 (5)	1 (1)	4 (2)	—
	U ₃	7 (6)	13 (12)	1 (1)	14 (9)	8 (4)	—	4 (2)	2 (—)	—
	U ₄	3 (1)	12 (10)	—	—	8 (5)	4 (2)	6 (6)	—	—
	U ₅	1 (—)	8 (8)	—	—	—	—	—	—	—
	U ₆	—	—	—	8 (6)	1 (1)	—	—	—	—
	U ₇	1 (1)	1 (—)	3 (3)	—	3 (2)	2 (—)	4 (1)	3 (1)	5 (2)

学の数（このなかには該当学部があっても回答をよせなかった大学がある）と回答をよせた大学の数とである。

国立大学と公立、私立大学とでは調査手順がやや異なっている。国公立では殆んどすべての大学（72 のうち 69 の大学）に対して調査したが、公立、私立の大学に対しては、大学要覧などにより大学（198 のうち 155 の大学）、学部の選定を行ない、この選定された特定の大学、学部に対してのみ調査を行なった。調査の最小単位は授業科目で、回答をえた学部数と授業科目数を大学群別、〔学部〕別に表に示した。〔表 4〕

大学によっては元来は同一の（同一であるべき）授業科目を 2 つ以上に分けて授業している。学生数が多いため 2 級以上に分けて授業を行なっているのは、この場合に相当するが、このようなときは、原則として一つの授業科目として扱った。学芸大学に分校があり、分校ごとに行なう授業も同様に扱ったが、元来は同一の授業である（あるべき）授業が教授内容に相当な違いがあり、同一授業とみなせなかった授業があった。その最も著しかったのが北海道学芸大学における〈確率と統計〉（授業科目の分類名称、詳しくは 2.1 でのべる）である。この後のべる種々の統計で、この種の事情から、特定の大学や特定の授業科目が強調され過ぎるきらいのあるものは、上にのべた北海道学芸大学の場合のみと考えると殆んど差障りない。

表 4 大学群別回答学部数と授業科目数——（ ）内授業科目数，* 資料不足のためこの後ではこの部分の統計を示さない。

〔学 部〕 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 部	その他
U ₁	6 (14)	* 1	8 (19)	6 (21)	9 (13)	* 4	8 (24)	* 4	* —
U ₂ ~U ₃	10 (22)	18 (57)	5 (14)	16 (24)	9 (13)	* 5	* 3	* 2	* —
U ₄ ~U ₅	* 1	18 (71)	* —	* —	* —	* 2	* 6	* —	* —
U ₆	* —	* —	* —	6 (16)	* —	* —	* —	* —	* —
国 公 立	18 (42)	39 (151)	18 (49)	30 (69)	28 (45)	* 21	25 (68)	* 9	* 5
私 立	1 (3)	5 (15)	4 (13)	17 (74)	3 (3)	* 14	40 (98)	* 12	* 9

2. 本 論

2. 1 大学における授業

調査の対象とした授業科目は、これまでにのべたように統計に関するものである。このような授業は 1.3 で規定した 9〔学部〕すべてにおいて行なわれている。同じ「統計に関する授業科目」であっても、それらの内容には相当な違いがある。

調査では授業科目の名称だけでなく、授業内容についても調べた。それについての回答をうる便宜上、教科書名とそのどの章節を教授するかについて問うた。期待どおり、あるいはそれ以上に詳しい回答が相当数あったが、細目が不明な回答もかなりあった。ただつぎの 19 項に分類するためには殆んど不都合はなかった。

1. 統計学原論
2. 統計学概論
3. 確率と統計
4. 確 率 論
5. 数理統計学
6. 数理特論 I
7. 数理特論 II
8. 数理特論 III
9. 関 連 数 学

授業科目	統計學原論	統計學概論	確率と統計	確率論	数理統計學	数理特論Ⅰ	数理特論Ⅱ	数理特論Ⅲ	關連數學	OR	教育統計	社會統計	經濟統計	經營管理統計	生物統計	體育統計	公衆衛生統計	電子計算機	雜	計	
國立	12	14	195	25	5	1	25	7	1	10	21	19	25	12	1	6	10	10	7	406	
	258										95										
公立		4	36	4	1		7	1		2	1	1	4		1			1		63	
	49										7										
私立	2	24	86	7	8		28	10	1	19	3	8	29	13	3	2	6	6		255	
	139										64										

表 6 統計学入門の授業はどの位行なわれているか

大学群 〔学部〕		国立		公立		私立	
		統計学概論	確率と統計	教育学概論	確率と統計	統計学概論	確率と統計
教育学 理学 工学 農学 医学 経済学 文学 その他	育芸		28				2
	学芸	1	78		3	1	6
	学芸		19		4		4
	学芸		24		4		19
	学芸		29		5		
	学芸		5		10		11
	学芸	13	10	4	7	20	28
計	計		1		1	3	7
	計		1		2		9
計		14	195	4	36	24	86

表 7 統計に関する数理を主とする授業は、どの位行なわれているか

大学群 〔学部〕		国立					公立					私立				
		確率論	数理統計	数理特論	数理特論 I III	計	確率論	数理統計	数理特論 II	数理特論 I III	計	確率論	数理統計	数理特論 II	数理特論 I III	計
教育学 理学 工学 農学 医学 経済学 文学 その他	育芸	12	3	5	2	22	1		2		3	2	3		2	7
	学芸	7	2			9	3	1		1	5	1	1	1	2	5
	学芸	6		17	3	26			3		3	4	4	26	4	38
	学芸			2		2			1		1			1		1
	学芸				3	3									2	2
	学芸								1		1					
	学芸															
計		25	5	25	8	63	4	1	7	1	13	7	8	28	10	53

＜確率と統計＞を除いた、統計に関する数理を主とする授業科目は全部で国立 63, 公立 13, 私立 53 であって、そのうちの多数の授業が行なわれている〔学部〕は〔工学〕,〔学芸〕および〔理学〕である。国立では〔工学〕で 40%,〔学芸〕35%,〔理学〕15%,私立では〔工学〕で 70%,〔学芸〕で 15%,〔理学〕で 100% 程度となっている。公立では〔理学〕で 40% 程度〔学芸〕と〔工学〕で同率の約 25% である。〔表 7〕

数理を主とする授業のうち最も多い授業は、国立では＜確率論＞の 40% で、これは数理特論と同率である。私立では＜数理特論 II＞で約 50%,＜確率論＞と＜数理統計＞がほぼ同じで 15% 近い率となっている。公立では＜数理特論 II＞が過半数であることは私立と同様であるが、これに次ぐ＜確率論＞が 30% 程度となっている。

＜確率論＞は国立で最も多く (40%) 行なわれていて、公立 30%, 私立はその半分にも満たない。国立では〔学芸〕で最も多く (12 科目) 行なわれており、〔理学〕と〔工学〕はほぼ同

数（それぞれ7科目，6科目）行なわれている．公立では〔理学〕，私立では〔工学〕で最も多く＜確率論＞の授業を行なっている．品質管理法，抜取検査法などを内容とする＜数理特論Ⅱ＞は国立40%，公立50%，私立50%程度であって，この授業を多く行なっている〔学部〕は当然のことながら〔工学〕である．国立で25のうちの17，公立で7のうちの3であり，私立に至っては28のうち26となっている．

〔工学〕で行なわれている授業（国立61，公立8，私立74科目）を基礎数理＜確率と統計＞＜確率論＞＜数理統計学＞その応用（＜数理特論Ⅱ＞＜数理特論Ⅰ，Ⅲ＞＜OR＞＜経営管理統計＞）などの視点から分けてみると，国立では基礎が50%，応用が45%，私立では基礎が40%，応用が60%となっていて，国立と私立とでは比率の大きさからみて逆の順序となっている．

ここで応用と考えた授業は，生産会社の経営，管理などに関する授業であって，国立，私立ともその半数に近い授業は＜数理特論Ⅱ＞，すなわち品質管理法，抜取検査法，実験計画法などである．

それにつぐ授業は＜OR＞で，その他は＜経営管理統計＞＜数理特論Ⅰ，Ⅲ＞である．〔表8〕

授業科目には〔学部〕による固有の傾向がみられる．これを概観するために19の授業科目を4群に分類した．

第1群 L_1 は統計学入門の授業＜統計学概論＞，＜確率と統計＞である．第2群 L_2 は統計に関する数理を主とした授業である．第3群 L_3 は実態解析に重点をおいた授業であるが，＜統計学原論＞と＜OR＞とはここに含めた．＜電子計算機＞と＜雑＞とをまとめて第4群 L_4 とした．

L_1 ……統計学概論，確率と統計

L_2 ……確率論，数理統計学，数理特論Ⅰ～Ⅲ，関連数学

L_3 ……教育統計，社会統計，経営管理統計，生物統計，体育統計，公衆衛生統計，OR，統計学原論

L_4 ……電子計算機，雑

ここで授業科目分類19種と授業科目群分類4種との関係を，国立大学について〔学部〕別にみることができるように表を作った．〔表9〕について授業科目群を用いて国立，公立，私立別

表8 工学部ではどんな授業が行なわれているか

大学群	授業科目	確率と統計	確率論	数理統計学	数理特論Ⅱ	数理特論ⅠおよびⅢ	OR	経営管理統計	電子計算機	その他	計
国立	数	24	6	—	17	1	7	2	3	1	61
	%	(39)	(10)	—	(44)				(5)	(2)	(100)
公立	数	4	—	—	3	—	1	—	—	—	8
	—	—	—	—	—				—	—	—
私立	数	19	4	4	26	4	12	2	2	1	74
	%	(26)	(5)	(5)	(60)				(3)	(1)	(100)

に各〔学部〕の授業科目数、または割合（パーセント）を求めた。〔表10〕

全授業科目 $L_1 \sim L_4$ のうち最も多いものは L_1 である。国立では406科目のうちの50%余、公立では63科目のうちの約60%、私立では225科目のうち約40%が L_1 である。

表 9 国立大学における授業科目と授業科目群

〔学部〕	授業科目	統計学概論	確率と統計	小計 L_1	確率論	数理統計学	数理特論 I	数理特論 II	数理特論 III	関連数学	小計 L_2	教育統計	社会統計	経済統計	経営管理統計	生物統計	体育統計	公衆衛生統計	O R	統計学原論	小計 L_3	電子計算機	雑	小計 L_4	計
教 育			28	28				1			1	8			2		3				13				42
芸 学		1	78	79	12	3		5	2		22	13	11	7			2		1		34	6	2	8	143
理 学			19	19	7	2			2	1	12					1		1	2		4	3	2	5	40
工 学			24	24	6		1	17			24				2			1	7		10		3	3	61
農 学			29	29									4	4	2						10				39
医 学			5	5				2			2						8				8				15
経 済		13	10	23					3		3		2	12	6			1	5		26	1		1	53
文 学			1	1									2	2					5		9				10
そ の 他			1	1												1	1			2					3
計				209							64										116			17	

表 10 授業科目数の授業科目群への配分

a: 〔学部〕, b: 授業科目群, c: 大学群

a	b	c 国 立					公 立					私 立				
		L_1	L_2	L_3	L_4	授業科目数	L_1	L_2	L_3	L_4	授業科目数	L_1	L_2	L_3	L_4	授業科目数
		%	%	%	%											
教 育		66.7	*	29.9	—	42						2			1	3
学 芸		55.2	15.4	23.8	5.6	143	3	3	1	1	8	7	7	1		15
理 学		47.5	30.0	*	12.5	40	4	5			9	4	5	1	3	13
工 学		39.6	39.6	16.4	*	61	4	3	1		8	19	38	15	2	74
農 学		74.4	—	25.6	—	39	5		1		6				3	3
医 学		*	*	*	—	15	10	1			11	11	1	3		15
経 済		43.5	*	49.0	*	53	11		4		15	48	3	46	1	98
文 学		*	—	*	—	10	1				2	10		8		18
そ の 他		*	—	*	—	3	2	1	1		4	9		7		16
計		51.5	15.7	28.6	4.2	406	40	13	9	1	63	110	54	85	6	255

注 * 学科目が僅少のため%を算出しない。 — 該当する学科目がない。公立および私立については学科目数が少ないため絶対数で示した。

補表 数字は授業科目の絶対数である

授業科目群		L_1	L_2	L_3	L_4	計
〔学部〕						
	医 学	5	2	8	—	15
	文 学	1	—	9	—	10
	そ の 他	1	—	2	—	3

これに次ぐものは国立でも私立でも L_3 で、約 30% を占めており、公立では L_2 が約 20% を占めて第2位である。第3位の授業は国立、私立は L_2 で 20% に近く、公立では L_3 で約 15% である。 L_4 はきわめて少なく、国立、私立、公立の順で 4%、2%、1% となっている。

〔学部〕によりどの授業 $L_1 \sim L_4$ に重点がおかれているかが異なっている。どの〔学部〕でも基礎である L_1 の授業を多数行なっているが、〔理学〕と〔工学〕では数理 (L_1 と L_2) に重点がおかれている。〔理学〕においては、国立で 40 科目の 80%、公立で 9 科目全部、私立で 13 科目のうちの 9 科目、また〔工学〕においては国立で 61 科目のうちの 80%、公立で 8 科目のうちの 7 科目、私立で 7 科目のうちの約 80% となっている。その他の〔学部〕では、基礎の L_1 のほかに数理の応用である L_3 に重点がかかっていて、 L_1 と L_2 とで国立、公立、私立とも各授業科目数のうちの 80% 以上、殆んどが 100% に近い。

これまでに、どのような授業が、どの〔学部〕で行なわれているかについて概観した。この結果、各〔学部〕で行なう授業はかなり種類が異なっていることがわかる。このこと自体は当然であるが、授業科目の分類 19 種は授業内容のある程度反映するので、統計教育の全般的な実状を具体的に示したという点で意義あるものと思う。

さて、実際問題としては、どの授業がどのような形態で行なわれているかなどを、各〔学部〕について明らかにすることが必要であるが、それらを大学群別に明らかにし、大学群間の比較ができるようにしておくことが望ましく思われる。それゆえに以下では、各〔学部〕別に大学群別の統計を示すが、さきに 7 群に分けた国立大学に関する統計は U_1 のみ、 U_2 と U_3 、 U_4 と U_5 、 U_6 のみ、国公立大学 ($U_1 \sim U_7$ および公立大学) の各大学群として求め、同時に私立大学の統計も求めることとした。これらの大学群のなかには、1.3 でのべた大学分類規準からも当然のことながら、いくつかの〔学部〕を欠いている。それ故に〔学部〕別の統計では授業科目が全くないとか殆んどない大学群の統計を欠いている。

〔学部〕別の統計を示す手初めに、1〔学部〕当り平均していくつの授業が行なわれているか調べてみよう。この平均授業科目数は、各〔学部〕別に、

$$\text{授業数}/[\text{学部数}]$$

を算出したものである。〔表 11〕同種の授業科目であっても、専門科目、教養科目などとして別個に授業を行なっている〔学部〕がある。このような場合は平均授業科目数が 1 を越えることがありうる。大学により〔学部〕によってその規模が違うので、ここに掲げた平均授業科目数は必ずしも明確な意味をもつ数字ではない。

つぎに掲げるものは、各〔学部〕別に、各種 (19種) 授業について

$$\text{授業数}/[\text{学部数}]$$

表 11 1〔学部〕当り 授 業 科 目 数

〔学部〕 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 学	そ の 他
U_1	2.3	—	2.4	3.5	1.9	—	3.0	—	—
$U_2 \sim U_3$	2.2	3.2	2.8	1.6	1.4	—	—	—	—
$U_4 \sim U_5$	—	3.9	—	—	—	—	—	—	—
U_6	—	—	—	3.2	—	—	—	—	—
国 公 立	2.3	3.3	2.7	2.5	1.7	1.3	2.7	1.3	1.4
私 立	3.0	3.0	3.3	4.4	1.0	1.1	2.9	1.5	1.8

表12 授業科目別, 1学部当り授業科目数

〔学部〕	大学群	授業科目														雑計							
		統計学概論	確率と統計	確率論	数理統計学	数理特論Ⅰ	数理特論Ⅱ	数理特論Ⅲ	関連数学	オペレーション	教育統計	社会統計	経済統計	経営管理統計	生物統計		体育統計	公衆衛生統計	統計学原論	電子計算機			
教 育	U ₁		1.2								0.7		0.2		0.3				2.3				
	U ₂ ~U ₃		1.8								0.3		0.1					2.2					
	国公立		1.6	0.1							0.4		0.1		0.2				2.3				
	私立		2.0								1.0								3.0				
学 芸	U ₂ ~U ₃	0.1	1.7	0.3	0.1	0.2					0.1	0.1	0.2				0.1	0.2	0.1	3.2			
	U ₄ ~U ₅		2.0	0.3	0.1	0.1		0.1				0.1	0.6	0.4	0.1		0.1		0.1	3.9			
	国公立	*	1.8	0.3	0.1	0.2		*				*	0.3	0.2	0.2		*		0.2	*	3.3		
	私立	0.2	1.2	0.3	0.6	0.4					0.2									3.0			
理 学	U ₁		0.5	0.8	0.3	0.3		0.1							0.1				0.3	2.4			
	U ₂ ~U ₃		1.8	0.2						0.2								0.6		2.8			
	国公立		1.3	0.6	0.2	0.2		0.1				0.1				0.1		0.2	0.1	2.7			
	私立		1.0	0.3	0.3	0.3		0.5				0.3							0.8	3.3			
工 学	U ₁		0.7	0.2	0.2		1.3				0.7							0.2		0.3	3.5		
	U ₂ ~U ₃		1.0	0.1	0.4					0.1										0.1	1.6		
	U ₆		1.0	0.8	0.6					0.4				0.4								3.2	
	国公立		1.0	0.2	* 0.7					0.3				0.1				*		0.1	2.5		
農 学	U ₁		1.1																				1.9
	U ₂ ~U ₃		1.2																				1.4
	国公立		1.3																				1.7
	私立																						1.0
医 学	国公立		0.8	0.2												0.4						1.3	
	私立		0.8	0.1												0.1 0.1						1.1	
経 済	U ₁	0.8	0.5	0.3						0.1	0.9			0.1				0.4				3.0	
	国公立	0.7	0.7	0.1						0.1	0.1			0.6	0.2				0.2	*		2.7	
	私立	0.6	0.8	*						0.2	*			0.8	0.3				*	*		2.9	
文 学	国公立		0.2							0.1			0.2	0.2				0.6				1.3	
	私立	0.3	0.6							0.2			0.3	0.1				0.1				1.5	
そ の 他	国公立		0.6	0.2						0.2						0.2 0.2						1.4	
	私立		1.0													0.1 0.2 0.4						1.8	

を求めたものである。これも平均授業科目数とよぶべきものである。〔表12〕

これらの数字を並行に用いれば、実状をややつかみやすくなる。たとえば〔教育〕学部では、U₁ 群も国公立大学群も平均授業科目数は 2.3 であるが、その内訳ではつぎの違った点がかがえる。一＜確率と統計＞の授業は U₁ 群より国公立大学の方がより多く、＜教育統計＞の授業は U₁ 群のほうが国公立大学より、より多く行なっている—このような実状をつかむことができよう。

統計に関する授業は大学によって必修科目であったり、選択科目であったりしている。それとの関連もあるが、ここでは専門科目として扱われているか、あるいは教養科目として扱われ

ているかについて調べた。専門科目であるか教養科目であるか不明の場合、また専門科目でも教養科目でもない、たとえば基礎教育科目などの場合を、その他として表に示した。〔表13〕

表 13 授業科目の専門、教養、その他の割合
() 内数字は授業科目数 a: [学部], b: 大学群, c: 授業科目

a \ b \ c		専 門	教 養	そ の 他	計
教 育	U ₁	100.0	—	—	(14)
	U ₂ ~U ₃	86.4	13.6	—	(22)
	国 立	92.8	7.2	—	(42)
	公 立	—	—	—	(—)
	私 立	*	*	—	(*)
学 芸	U ₂ ~U ₃	87.7	10.5	1.8	(57)
	U ₄ ~U ₅	78.6	11.4	10.0	(70)
	国 立	71.9	17.4	5.6	(143)
	公 立	87.5	12.5	—	(8)
	私 立	93.3	6.7	—	(15)
理 学	U ₁	94.8	5.2	—	(19)
	U ₂ ~U ₃	100.0	—	—	(14)
	国 立	90.0	10.0	—	(40)
	公 立	100.0	—	—	(9)
	私 立	100.0	—	—	(13)
工 学	U ₁	100.0	—	—	(21)
	U ₂ ~U ₃	91.6	8.4	—	(24)
	U ₆	93.7	—	6.3	(16)
	国 立	95.0	3.3	1.7	(61)
	公 立	75.0	25.0	—	(8)
農 学	私 立	93.1	5.4	1.5	(74)
	U ₁	100.0	—	—	(13)
	U ₂ ~U ₃	100.0	—	—	(13)
	国 立	94.9	2.5	2.5	(39)
	公 立	83.3	16.7	—	(6)
経 済	私 立	*	—	—	(*)
	U ₁	95.8	4.2	—	(24)
	国 立	86.7	3.8	9.4	(53)
	公 立	53.3	46.7	—	(15)
	私 立	77.5	22.5	—	(98)

2.2 授業担当者

ここでは授業担当者の身分についてのべた上で、特定身分の授業担当者が授業全部のうちのどの程度を担当しているかについてのべる。更に担当者の専攻学科と授業との関係についてのべる。

最初に掲げた授業担当者の身分については、二つの観点からみることができる。その一つは、専任・兼任・臨時（非常勤）のいずれであるかであって、このために全授業のうちで専任者（兼任、臨時）が担当する授業の割合（パーセント）を〔学部〕別に求めた。詳しい表はこの節の後に掲げるとして、ここには専任者による授業の割合のみの表を示しておこう。〔表14〕

〔理学〕以外では私立より国公立のほうが専任者の行なう授業の割合が20%以上高くなっている。この傾向は国立大学のどの群をとっても私立大学に対し同様である。国公立大学において、高率の〔学部〕から順に列举すると〔工学〕,〔経済〕,〔教育〕,〔農学〕,〔学芸〕である。私立大学においては例数が少ないので割合を算出しなかった〔学部〕があるが、それ以外のものについて、国公立大学と同様に列举すると〔工学〕,〔経済〕,〔学芸〕である。この順序は空位を除いて一致している。さきに除外した〔理学〕については、専任者が担当する授業の割合が、国立より私立のほうが大きくなっている。国立のどの大学についても私立に対し同様な関係になっている。

専任の教官が授業全体のうちどの程度を担当しているかについて調べてきたが、更に詳しく、どのような授業科目で、どの位の授業数を担当しているかについて調べてみよう。さきにのべた授業科目群を用い、各〔学部〕において各授業科目群を専任者がどの位担当しているか

表 14 専任者が担当する授業の割合（パーセント）
 （ ）内の数字は教授が担当する授業の割合

〔学 部〕	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
大学群						
U ₁	79 (36)	—	67 (33)	95 (57)	77 (15)	88 (63)
U ₂ ~U ₃	100 (18)	79 (18)	64 (50)	88 (33)	85 (23)	—
U ₄ ~U ₅	—	92 (33)	—	—	—	—
U ₆	—	—	—	88 (31)	—	—
国 公 立	88 (24)	82 (27)	68 (36)	92 (44)	85 (28)	91 (68)
私 立	—	60 (67)	77 (31)	66 (47)	*	64 (37)

を示す量として、

$$100 \times (\text{専任者担当授業科目数}) / (\text{専任} \cdot \text{兼任} \cdot \text{臨時教官担当授業科目数})$$

を、各大学群について求めた。〔学部〕、授業科目群、大学群の3重分類では授業数が少ないので、専任者の担当する授業の割合（パーセント）は10を単位として求めた。ここには、どの大学群、どの〔学部〕でも行なわれている授業科目群 L₁ について、専任者がどの程度の授業を消化しているかについて、専任者がどの程度の授業を消化しているかを示す割合（パーセント）を掲げておく〔表15〕この詳しい表は、この節の最後に掲げておく。

L₁ に関する授業はどの〔学部〕をとってみても、国公立大学のほうが私立大学より専任者がより多くの授業を消化している。この点は国公立のどの大学群についても同様である。〔学部〕については、L₁ の授業を専任者が最も多く消化しているのは、国立大学では、〔工学〕で、以下〔教育〕、〔経済〕、〔農学〕、〔学芸〕、〔理学〕の順である。私立大学では〔工学〕、〔学芸〕で70%、〔経済〕、〔理学〕で半数である。各大学群、各〔学部〕ごとに求めた平均授業科目数と授業 L₁ を専任者が担当している割合との間には特に相関関係はないようである。

最後に、表に掲げた数字は「授業が行なわれている場合」という条件のもとでの専任者の担当状況である点に注意しなければならない。（ ）内の数字は専任者以外の者による授業を含めて、一学部あたりの平均授業科目数である。したがって、たとえば〔工学〕においては国公

表 15 授業科目群 L₁ を専任者が担当している割合
 （ ）内数字は専任者以外も含めた平均授業数

〔学 部〕	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
大学群						
U ₁	60 (1.2)	—	60 (0.5)	100 (0.7)	80 (1.1)	80 (1.3)
U ₂ ~U ₃	100 (1.8)	80 (1.8)	90 (1.8)	90 (1.8)	80 (1.2)	—
U ₄ ~U ₅	—	90 (2.0)	—	—	—	—
U ₆	—	—	—	80 (1.0)	—	—
国 公 立	89 (1.6)	82 (1.8)	74 (1.3)	94 (1.0)	83 (1.3)	86 (1.4)
私 立	—	70 (1.4)	50 (1.0)	70 (1.1)	—	50 (1.4)

立大学で平均1.0の授業を行なっていて、しかも授業を行なっている大学では、ほとんど全部(94%)の授業を専任者が行なっていることを示している。授業担当者の身分についての第二の観点は、教授・助教授・講師・助手のいずれであるかである。助手が授業担当者となることは形式上・制度上は許されないことと思われるが、授業を担当して、しかるべき能力ある助手がいて、実際に助手が授業している場合がある。この調査では形式でなく実際の状態を把握するために、授業担当者の身分区分に助手の一項を設けておいた。この区分にしたがい、特定身分の担当者が行なう授業が各大学群、各〔学部〕における全授業のうちのどの程度の授業を担当するかについて検討した。この詳しい表も、この節の最後に掲げるとして、ここでは教授と助教授とで消化している授業の割合（パーセント）のみの表を示しておこう。〔表16〕

表 16 教授・助教授が担当する授業の割合

大学群 〔学部〕	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
U ₁	79	—	71	90	85	100
U ₂ ~U ₃	96	83	79	92	77	—
U ₄ ~U ₅	—	88	—	—	—	—
U ₆	—	—	—	88	—	—
国 公 立	86	80	78	91	80	97
私 立	—	73	69	73	—	54

割合を求めることができる程度に資料の整った〔学部〕すべてについて、国公立大学のほうが私立大学より教授と助教授（これらは殆んどすべてが専任者である）とが担当する授業が多い。この傾向は国立大学のどの大学群をとってみても同様である。教授と助教授とで消化する授業の割合が国立大学で最も多いのは〔経済〕で、ほとんど全授業（97%）であるが、私立大学では約半数（54%）である。国立大学で〔経済〕につぐものは〔工学〕（約90%）、〔農学〕、〔学芸〕、〔理学〕（以上は約80%）であるが、これらに対応して私立では〔工学〕、〔学芸〕とも70%強、〔理学〕が70%弱となっている。

統計に関する授業の担当者が、どのような学問を専攻した者であるかについて授業科目群を統計初歩（L₁）、統計数理（L₂）、応用統計（L₃）および計算機械（L₄）の4群に分類したが、それぞれの授業を何を専攻した者が担当しているかを問題とした。この専攻は数学、数理統計学、学部固有統計、学部固有学科（統計以外）の4分類とし、授業担当者に問うた（3のイ。調査関係書類、カード（表）の記入要領参照）。各〔学部〕ごとに、大学群別に、各授業科目群の授業のうち各専攻の教官が担当する授業が何パーセントであるかを求めた。〔理学〕についての数字は求めなかった。その理由の一つは、数学専門教育に関する調査で回答を求めなかったことにもよるが、それを調べる必要が認められなかったからでもある。また、〔理学〕からの数学専門教育以外の回答はきわめて僅少のためでもあった。ここでも例数が10以下の場合、パーセント数は10を単位に丸め、それ以上の場合は1の単位まで求めた。この表でも、詳しいものは、この節の最後に掲げることとし、ここには統計以外の学科（学部固有学科とよんだ）を専攻した者がL₁の授業（L₃の授業）を担当する割合（パーセント）のみを掲げた。〔表17〕

表 17 学部固有学科を専攻した者が L_1 授業と L_3 授業を担当する割合
() 内は L_3 授業担当の割合

学部	教 育	学 芸	工 学	農 学	経 済
大学群					
U_1	70 (80)	—	50 (40)	100 (60)	9 (17)
$U_2 \sim U_3$	33 (60)	9 (60)	36 (100)	91 (50)	—
$U_3 \sim U_5$	—	3 (90)	—	—	—
U_6	—	—	— (30)	—	—
国 公 立	46 (62)	6 (69)	25 (45)	77 (60)	12 (23)
私 立	— (100)	30 (100)	4 —	— (70)	27 (—)

表 18 授業担当者の身分別の割合

a: 学部, b: 大学群, c: 身分

a	b \ c	専 兼 臨			教 助 講 助			
		任	任	時	授	授	師	手
教 育	U_1	78.5	21.5	—	35.7	42.9	21.4	—
	$U_2 \sim U_3$	100.0	—	—	18.2	77.3	—	4.5
	国 公 立	88.1	7.1	4.8	23.8	61.9	11.9	2.4
	私 立	—	*	*	*	—	*	—
学 芸	$U_2 \sim U_3$	79.0	12.2	8.8	17.5	65.0	17.5	—
	$U_4 \sim U_5$	91.8	5.5	2.7	32.8	54.8	11.0	1.4
	国 公 立	81.5	11.9	6.6	27.4	53.0	17.9	1.7
	私 立	60.0	40.0	—	66.7	6.7	26.6	—
理 学	U_1	66.7	19.0	14.3	33.3	38.1	19.0	4.8
	$U_2 \sim U_3$	64.3	7.1	28.6	50.0	28.6	21.4	—
	国 公 立	68.0	14.0	18.0	36.0	42.0	22.0	—
	私 立	77.0	23.0	—	30.8	38.4	30.8	—
工 学	U_1	95.3	—	4.7	57.1	33.3	9.6	—
	$U_2 \sim U_3$	87.5	8.3	4.2	33.3	58.3	8.4	—
	U_6	87.5	12.5	—	31.3	56.3	12.4	—
	国 公 立	92.0	5.3	2.7	44.0	46.6	9.4	—
	私 立	65.8	25.3	8.9	46.8	26.6	26.6	—
農 学	U_1	77.0	7.7	15.3	15.4	69.2	15.4	—
	$U_2 \sim U_3$	84.6	8.2	7.2	23.1	53.8	23.1	—
	国 公 立	84.8	8.7	6.5	28.2	52.2	17.4	2.2
	私 立	*	—	*	*	*	*	—
経 済	U_1	87.5	12.5	—	62.5	37.5	—	—
	国 公 立	91.2	8.8	—	67.7	29.4	2.9	—
	私 立	64.4	33.6	2.0	36.6	17.8	45.6	—

表 19 各授業科目を専任者はどの程度担当しているか

() 内数字は専任者以外も含めた平均授業数

a: [学部], b: 大学群, c: 授業科目群

b \ c		L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	計
a						
教 育	U ₁	60(1.2)	—	100(1.2)	—	79(2.3)
	U ₂ ~U ₃	100(1.8)	—	100(0.4)	—	100(2.2)
	国公立	89(1.6)	—(0.1)	92(0.7)	—	89(2.3)
	私立	—(2.0)	—	—(1.0)	—	—(3.0)
学 芸	U ₂ ~U ₃	80(1.8)	100(0.6)	60(0.4)	30(0.3)	79(3.2)
	U ₄ ~U ₅	90(2.0)	100(0.6)	90(1.3)	100(0.1)	92(3.9)
	国公立	82(1.8)	92(0.6)	72(0.7)	82(0.2)	82(3.3)
	私立	70(1.4)	30(1.4)	100(0.2)	—	60(3.0)
理 学	U ₁	60(0.5)	60(1.5)	50(0.2)	—(0.3)	67(2.4)
	U ₂ ~U ₃	90(1.8)	100(0.2)	—(0.2)	—(0.6)	61(2.8)
	国公立	74(1.3)	65(1.0)	50(0.2)	40(0.3)	68(2.7)
	私立	50(1.0)	80(1.4)	—(0.3)	100(0.8)	77(3.3)
工 学	U ₁	100(0.7)	100(1.7)	80(0.9)	100(0.3)	95(3.5)
	U ₂ ~U ₃	90(1.0)	90(0.5)	100(0.1)	100(0.1)	88(1.6)
	U ₆	80(1.0)	90(1.4)	100(0.8)	—	88(3.2)
	国公立	94(1.0)	89(1.0)	91(0.4)	100(0.1)	92(2.5)
農 学	U ₁	80(1.1)	—	80(0.6)	—	77(1.9)
	U ₂ ~U ₃	80(1.2)	—	100(0.2)	—	85(1.4)
	国公立	83(1.3)	—	91(0.3)	—	85(1.7)
	私立	—	—	* (1.0)	—	* (1.0)
経 済	U ₁	80(1.3)	100(0.3)	90(1.5)	—	88(3.0)
	国公立	86(1.4)	100(0.1)	92(1.2)	100(*)	91(2.7)
	私立	50(1.4)	30(0.1)	80(1.3)	100(*)	64(2.9)

L₃ 授業は学部固有の統計であり、L₁ は統計初歩である。この調査での統計非専攻者がどの程度、統計に関する授業を担当しているかを示したのがこの表の数字である。一般に考えられることは L₃ の数字の方が L₁ の数字より大きいことである。事実、表が示すように、そのとおりであるが、大学群・[学部]によって、その違いにはかなりの差がみられる。国立大学の[学芸]においては L₁ の数字はきわめて小さく10%に満たないが、L₃ の数字は大学群によって違いはあるが、過半数から100%にまでおよんでいる。[学芸]では、国立大学で L₁ の数字がどの大学群でもそろって小さいが、私立大学では30%とかなり多くなっている。[学芸]と対照的なのは[農学]で L₁ の数字より L₃ の数字のほうが小さく、国立大学ではほぼ80%(U₁ 100%, U₂~U₃ 90%) に対し 60% (U₁ 60%, U₂~U₃ 50%) である。[経済]は[学芸]に近い状態を示している。これら以外の[教育]、[工学]では L₃ の数字のほうが L₁ の数字より大きくなっている。

以下、この節の随所でことわった表を掲げておく〔表 18〕,〔表 19〕,〔表 20(末尾)〕。

2.3 授 業 対 象

統計教育の実状を把握しようとするれば、授業がどのような学生を対象としているかが問題となろう。われわれは三つの観点から授業対象を分類し検討した。

まず、授業が、その授業を行なう学部・学科に固有の学生のみを対象としているか、それとも他の学部・学科の学生も対象としているかが第一の観点である。第二の観点は受講者数である。第三の観点は、女子が受講しているかどうか。女子が受講している授業には、およそ幾名の女子がいるかである。

以下に、具体的に説明するが、調査対象となった学部・学科の学生のみが受講している授業科目を固有科目、他の学部・学科の学生も受講している授業科目を他科目とよぶことを、ここに断わっておく。

第一の点についてのべる場合、授業科目を専門と教養とに区別し、専門科目では・教養科目では・また区別しない全科目（不明を含む）では固有科目がどの位あるかを示す数字（パーセント）を求めた、すなわち、〔学部〕ごとに、大学群別に、専門・教養・全体の別に

$$100 \times (\text{固有(他)科目数}) / (\text{全科目数})$$

を求めた〔表 21〕,〔表 22〕,〔表 23〕. U_6 群は単科大学のみの群であるから固有科目の割合が

表 21 全科目（不明を含む）のうちで固有科目の占める割合
（パーセント）

学 部 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
U_1	86	—	78	100	100	92
$U_2 \sim U_3$	91	68	43	96	100	—
$U_4 \sim U_5$	—	86	—	—	—	—
U_6	—	—	—	100	—	—
国 公 立	88	80	63	93	100	82
私 立	100	93	85	89	70	88

表 22 専門科目のうちで固有科目の占める割合
（パーセント）

学 部 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
U_1	86	—	76	100	100	91
$U_2 \sim U_3$	89	70	43	95	100	—
$U_4 \sim U_5$	—	84	—	—	—	—
U_6	—	—	—	100	—	—
国 公 立	87	78	64	94	100	87
私 立	100	93	85	88	70	82

表 23 教養科目のうちで固有科目の占める割合
(パーセント)

学 部	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
大学群						
U ₁	—	—	—	—	—	100
U ₂ ~U ₃	100	50	—	100	—	—
U ₄ ~U ₅	—	100	—	—	—	—
U ₆	—	—	—	—	—	—
国 公 立	100	87	*	80	100	60
私 立	100	100	—	100	—	91

すべて100%であることは当然である。概して、U₄~U₅群、U₂~U₃群、U₁群の順序で学部数が多い。この点からは、その順序で固有科目の割合が少なくなっていることが想像される。しかし、実際は必ずしもそのような単純な傾向を示していない。専門科目・教養科目の不明な授業も含めた全科目について調べた結果、〔農学〕と〔工学〕とで固有科目の割合が高く、殆んどすべてが固有科目となっている。それらについては〔経済〕、〔教育〕、〔学芸〕であって、最も低いのは〔理学〕のようである。この調査で〔理学〕の大部分については専門科目のみについて回答をえたから、この点からは〔理学〕における全科目の結果は専門科目の結果と考えて先ず誤りなく、この点からは〔理学〕の全科目で固有科目の占める割合は高いと思われる。しかし、このような点があるにもかかわらず〔理学〕が最も低い固有科目の割合を示している。以上は国公立大学における大学群を基礎にして、固有科目の占める割合を〔学部〕間で比較した結果である。

つぎに、国公立大学と私立大学との間の比較を行なうと、〔工学〕と〔農学〕以外では私立大学のほうが固有科目の占める割合が高くなっている。国公立と私立の比較で、特に目立つ点は、私立〔教育〕で100%、私立〔農学〕で70%である。ただし、〔教育〕も〔農学〕も私大からの回答が特に少ない〔学部〕であるから、この点に留意しなければならない。国公立は殆んどすべての大学が回答をよせたのに対し私立は一部分であり、また国公立と私立とで各〔学部〕に該当する学部数が違い、回答をよせた大学数は〔教育〕で国立18、私立1、〔農学〕で国立24、私立3である。つぎに、各〔学部〕の概要についてのべておこう。〔表24〕

〔教育〕 私大では学生が他の学部・学科の授業を受けることが全くないことがみられる。国公立大学においては、専門科目の8%が他科目であって、特にU₁大学群にあっては14%が他科目である。

〔学芸〕 固有科目か他科目かが不明の授業を無視すれば、私大では他科目が全くないのに対し、国公立大学には2割近い他科目がある。教養科目では10%を越えているが、U₂~U₃群の50%に対しU₄~U₅群は0%である。専門科目では約20%であって、U₂~U₃群で28%、U₄~U₅群で13%である。教養科目より専門科目に他科目が多いことがみられる。

〔理学〕 他の〔学部〕の場合と違い、調査では〔理学〕の教養科目を原則として除外した。専門科目についてみると、私大に他科目が15%あるのに対し、国公立にはその約倍の33%の他科目がある、しかし、国公立でもU₁群の18%に対しU₂~U₃群は57%であって相当な違いがある。既にのべたが、私大の専門科目に1割以上の他科目がある〔学部〕は〔理学〕のみ

表 24 他学部学生も受講している授業は、どの位行なわれているか

a: 学部, b: 大学群, c: 学科目

a	b \ c	専 門		教 養		全 (不明を含む)	
		固 有	他	固 有	他	固 有	他
教 育	U ₁	86	14	—	—	86	14
	U ₂ ~U ₃	89	—	100	—	91	—
	国 公 立	87	8	100	—	88	7
	私 立	100	—	100	—	100	—
学 芸	U ₂ ~U ₃	70	28	50	50	68	30
	U ₄ ~U ₅	84	13	100	—	86	10
	国 公 立	78	21	87	13	80	19
	私 立	93	—	100	—	93	—
理 学	U ₁	76	18	—	—	78	17
	U ₂ ~U ₃	43	57	—	—	43	57
	国 公 立	64	33	*	*	63	35
	私 立	85	15	—	—	85	15
工 学	U ₁	100	—	—	—	100	—
	U ₂ ~U ₃	95	—	100	—	96	—
	U ₆	100	—	—	—	100	—
	国 公 立	94	—	80	—	93	—
	私 立	88	—	100	—	89	—
農 学	U ₁	100	—	—	—	100	—
	U ₂ ~U ₃	100	—	—	—	100	—
	国 公 立	100	—	100	—	100	—
	私 立	70	—	—	—	70	—
経 済	U ₁	91	9	100	—	92	8
	国 公 立	87	11	60	40	82	16
	私 立	82	4	91	—	88	3

である。

〔工学〕〔農学〕固有科目か他科目かが不明の授業を除けば、両〔学部〕とも専門科目・教養科目の別なく、どの大学群においても他科目が全くない。すべての授業が固有科目であることがみられる。

〔経済〕専門科目に固有科目か他科目かが不明な授業が約10%あるが、概ね私大より国公立大学のほうに他科目が多いようである。国公立では教養科目に40%の他科目があり、専門科目に約10%の他科目がある。

第二の受講者数については、〔学部〕別、大学群別、授業科目群別に、受講者数を求めた。この受講者数は、もとは一つの授業科目であっても、受講者が多数であるなどの理由で、2級以上に分けて授業を行なっている場合も一つの授業科目として扱った。この2以上の級を2人以上の教官が分担している場合でも一つの授業として扱った。このため受講者が非常に多い授業がある。教養科目のなかには、専門学科に無関係に（実際上は学生はまだ何を専攻するか、その専攻学科に分かれていない段階であろうが）、〔学部〕の全学生に同時に行なっている授業科目がある。このような授業科目があるかどうかは、大学によって違い、〔学部〕の規模（設置

表 25 1 授業当りの受講者数 (中位数)

[学 部]		教	学	理	工	農	経
授業科目群		育	芸	学	学	学	済
大学群	1	◎ 34	◎ 51	○ 23	◎125	◎ 46	◎130
	2	12 *	21	14	48	—	65
	3	○ 22	○ 29	◎ 24	○ 53	○ 37	43
	4	—	14	17	45	—	○ 97 *
私 立	1	○ 32 **	◎ 45	◎ 59	106	—	○251
	2	—	17	○ 53	○ 110	—	13
	3	◎ 45 *	○ 45 *	35 *	95	◎ 95	67
	4	—	—	23	◎ 125**	—	◎350 *

されている学科の種類や定員など)に関係するが,そのような教養科目の受講者数は非常に多い場合がある. 国公立大学と私大とに分けて, [学部], 授業科目群別に 1 授業あたりの受講者数 (中位数を用いて) を求めた [表 25]. 大学群, 授業科目群のあるものについては該当授業数が僅少である. この表では, ただ一つしかない場合は, その受講者数 (* 印で示した) を, また授業が 2 つの場合は平均値 (** 印で示した) を示した. 大学群, [学部] ごとに求めた各授業科目群の 1 授業あたりの受講者のうち, 受講者が最多数の授業科目群に◎印, それにつくものに○印をつけた. 第 1 位, 第 2 位が同数の場合, いずれかを第 1 位とした.

統計学入門 L₁ は殆んどすべての [学部] で最多数の受講者がいる. 最多数でなくとも, 国公立 [理学], 私立 [工学], 私立 [経済] のいずれも最多数にきわめて近い数の受講者がいる. 各 [学部] の特徴は受講者数が第 2 位以下の授業科目群によってみられよう. [学部] 別の概要を示すために表をつぎに掲げておく [表 26 (末尾)]. この表では, 受講者数を中位数で示したが, さらに撒ばりの度合をみるために第 1 四分位数と第 3 四分位数を求めて図に記入した. 各大学群, 各授業科目群の該当授業数が二つの場合は撒ばりの状態を示すために受講者数を図に記入した.

第三の点, 女子の受講者については, まず女子が受講しているかどうかの観点から, 全授業科目のうちで女子が受講している授業の割合 (パーセント) を求めた [表 27].

国公立大学で最高位の [教育] (90%) は私立では第 3 位 (70%), それに続く [学芸] (82%) と [理学] (61%) は私立では 1 位 (93%) と 2 位 (92%) となっている. [工学] は国公立, 私立とも最下位でそれぞれ 27%, 30% である. [農学] は国公立で 4 位 (48%), 私立で 5 位 (30%), [経済] は国公立で 6 位 (34%) で低いにもかかわらず, 私立では 4 位 (68%) である. [教育], [農学] は国公立のほうが私立より女子受講者のいる授業が多いが, その他の [学芸], [工学], 特に [理学], [経済] では私立大学に女子受講の授業が多い.

表 27 女子が受講している授業科目の割合 (パーセント)

[学 部]		教	学	理	工	農	経
大学群		育	芸	学	学	学	済
国 公 立		90	82	61	20	48	34
私 立		70	93	92	27	30	68

表 28 女子受講者全数——私立大学の数字は国公立大学を 100 とした場合の割合

〔学部〕 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
国 公 立	643	1883	337	43	67	97
私 立 表	7	2	2	98	11	366

表 29 1 授業当りの女子受講者数（モード）

〔学部〕 大学群	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
国 公 立	7 *	2 *	2 *	2 *	2 *	2 *
私 立	* 19	12 *	5 *	2 *	7	2 *

表 30 女子学生が受講している授業は、どの位行なわれているか

* 印 授業が 1 科目のため資料そのものを示す

** 印 授業が 2 科目のため平均を示す

a: [学部], b: 大学群

b a		女子受講者 いるいない授業, % い る い ない		女子受 講 者 数	いるときの女子 受 講 者 数 中位数 モード	
教 育	U ₁	86	14	89	7	7
	U ₂ ~U ₃	95	5	535	18	10
	国 公 立	90	10	643	12	7
	私 立	70	30	47	24**	—
学 芸	U ₂ ~U ₃	76	24	535	6	2
	U ₄ ~U ₅	93	7	885	8	2
	国 公 立	82	18	1883	8	2
	私 立	93	7	378	13	12
理 学	U ₁	35	65	47	7	2
	U ₂ ~U ₃	69	31	53	4	2
	国 公 立	61	39	337	8	2
	私 立	92	8	74	6	5
工 学	U ₁	10	90	4	2**	—
	U ₂ ~U ₃	29	71	24	3	2
	U ₆	33	67	20	4	2
	国 公 立	20	80	43	3	2
	私 立	27	73	42	3	2
農 学	U ₁	46	54	19	3	2
	U ₂ ~U ₃	33	67	13	3	2
	国 公 立	48	52	67	3	2
	私 立	30	70	7	7*	—
経 済	U ₁	17	83	8	3	2
	国 公 立	34	66	97		
	私 立	68	32	378	3	2

表 31 授業全数 (a), 受講者数 (b), 女子の受講する授業の割合 (c),
女子受講者数 (d), ………b, d は中位数, c はパーセント

[学 部]		教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
大学群	a	14		19	21	13	24
	b (人)	23		21	55	35	39
	c (%)	86		35	10	46	17
	d (人)	7		7	2	3	2
U ₂ ~U ₃	a	22	57	14	24	13	
	b (人)	39	21	19	89	43	
	c (%)	95	76	69	29	33	
	d (人)	18	6	4	3	3	
U ₄ ~U ₅	a		70				
	b (人)		36				
	c (%)		93				
	d (人)		8				
U ₆	a				16		
	b (人)				45		
	c (%)				33		
	d (人)				4		
国 公 立	a	42	151	49	69	45	68
	b (人)	29	35	20	65	45	95
	c (%)	90	82	61	20	48	34
	d (人)	12	8	8	3	3	3
私 立	a	3	15	13	74	3	98
	b (人)	45	39	54	115	95	135
	c (%)	70	93	92	27	30	68
	d (人)	9	13	6	3	7	3

この調査では殆んどすべての国公立大学から回答をえたが、私立大学はその一部に過ぎない。したがって女子受講者全数は、回答があった授業の女子受講者総数とは一致しないが、この数字を表示にした。私立大学の数字は国公立大学の女子受講者数を100とした場合の数（パーセント）である〔表 28〕。

国公立大学では〔学芸〕に女子受講者が非常に多く、2,000人に近い。私立大学では〔学芸〕が少ないこともあるが、女子受講者は国公立の約2%である。この比率（パーセント）は〔理学〕でも同じである。比率がもう少し高いのは〔教育〕の7%、〔農学〕の11%である。国公立私立と殆んど同数の女子受講者がいるのは〔工学〕であって、私立に圧倒的に多いのは約3倍半の女子受講者がいる〔経済〕である。なお、ここで特に断わっておきたいことは、各〔学部〕の受講者は、各〔学部〕で行なう授業の受講者であって、その受講者が必ずしもその〔学部〕所属の学生でないことである。〔農学〕の学生が〔経済〕の行なう授業を受けていれば〔経済〕の受講者として加算した。

女子が受講している授業のみに注目したとき、1授業あたりどの程度の女子が受講しているかを確かむために、中位数とモードとを求めた。つぎの表にモードを掲げた。数字に添えた*印は、中位数がモードより小さければ数字の（向って）左側に、大きければ右側に添え、一致

していれば*印をつけないで分布の概要を示した〔表 29〕. 〔教育〕の私立 (*19) と〔農学〕の私立 (7) を除いてはすべてモードの右側に中位数があり, そのうち〔教育〕の国公立 (7*), 〔学芸〕の私立 (12*), 〔理学〕の私立 (5*) のほかはすべてモードが2である.

見方を変えると, 国公立大学では〔教育〕以外の〔学部〕で行なわれる授業で, 女子が受講する授業は, 女子が2名の場合が最も多く, 大勢としては2名をわずかに越える程度である. 私立大学で女子が受講する授業は, 〔工学〕と〔経済〕以外では国公立より女子数が多い. 特に〔教育〕と〔学芸〕でその傾向が強い.

各〔学部〕別にやや詳しい数字をつぎに示し, 大学群間の比較に供した〔表 30〕〔表 31〕.

2. 4 授 業 時 間 数

大学における授業は単位制となっていて, 通常週2時間授業1回が半年で2単位となっている. このようなことから, 授業時間数は単位で表現すれば簡単であるが, つぎの理由から, この調査では時間数そのものについて問うた. その第一の理由は, 大学によって1時限の時間が必ずしも同じでなく, いろいろな時間数の時限が無定義に混用されるおそれがあり, それによる混乱を避けようとしたためである. 第二の理由は, 授業が講義のみの授業かどうか, 演習を含むならば, どの程度の時間をそれに振りあてているかなどについても把握しようとしたためである.

さて, 授業時間数についてのべるに先立って, 授業が講義だけのものか, 演習を講義に折り込んで行なっている授業か, それとも講義とは別に演習時間を設けている授業か, このような見方から授業の形態について調べた〔表 32〕. 講義のみの授業が非常に多いことがわかる. 概ね L_1 , L_2 , L_3 , L_4 の順で講義のみの授業が多いが, 〔農学〕はこの例外である. 〔農学〕では統計初歩 L_1 と農学固有の統計が教授されていて, 前者で国公立 88%, 後者で国公立 55%, 私立 30% である. 国公立と私立との比較では特にいずれが講義のみの授業が多いとはいえないが, 国公立の大学群は必ずしも同じ状態にはなっていない. この節の最後に, やや詳しい〔学部〕の集計結果を掲げておく〔表 34〕.

授業のなかには, 講義と演習とを折りまぜているものもあるが, 講義とは別に (独立に) 演習時間をもうけてある授業がある〔表 33〕. 〔農学〕には, そのような授業が全くないが, その他の〔学部〕にはある. 独立に演習をもつ授業が多いのは〔理学〕と〔工学〕で, それについては〔学芸〕, 〔教育〕と〔経済〕は僅少である. 授業科目としては L_1 と L_2 に多く, L_3 では僅少である.

表 32 講義のみの授業の割合 (パーセント)

〔学 部〕		授 業 科 目					
大学群		教 育	学 芸	理 学	工 学	理 学	経 済
国 公 立	L_1	60	57	67	59	88	85
	L_2	100	72	63	82	—	80
	L_3	69	92	100	91	55	71
	L_4	—	80	100	100	—	100
私 立	L_1	100	60	50	58	—	96
	L_2	—	70	60	79	—	100
	L_3	100	—	100	60	30	85
	L_4	—	—	100	100	—	—

表 33 独立に演習をもつ授業の割合（パーセント）

[学 部]		教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	経 済
授業科目							
大学群							
国 公 立	L ₁	7	8	33	11	—	3
	L ₂	—	16	19	7	—	—
	L ₃	—	—	—	9	—	4
	L ₄	—	—	—	—	—	—
私 立	L ₁	—	—	—	31	—	—
	L ₂	—	10	40	5	—	—
	L ₃	—	—	—	10	—	2
	L ₄	—	—	—	—	—	100

つぎに、このような形態で行なわれている授業にどの位の時間がかけられているかを調べた。さきにのべたように調査では時間数そのものについて調べたが、授業時間を4階級に簡約した。一般に大学における授業は単位制にもとづいているから、この事実を勘案して、35時間未満を2単位、35時間以上45時間未満を3単位、45時間以上65時間未満を4単位、65時間以上を「その他」として4階級を設け、表として示した〔表34(末尾)〕。どの〔学部〕、どの授業科目(L₁~L₄)でも、どの大学群でも最も多いのは4単位の場合であるが、2単位の場合も少なくなく、ほぼ等しい時もある。

2. 5 教科書と副読本

大学における授業では教科書が使われない場合が相当にある。実際はどの程度であるのか、授業の種類によってどのくらい違うのか、このような点について調べた。

教科書を使うか否かについて回答がなかったものもあった。この不明の分は回答のあったものと、使う・使わないの割合が同様であるとみて、つぎの表を示した〔表 35〕。

教科書を使わない傾向の強い〔学部〕は〔理学〕を筆頭に〔学芸〕、〔農学〕であり、それに対照的なのは〔医学〕である。それ以外の〔学部〕では概して教科書を用いているが、国公立の〔工学〕、〔経済〕、〔その他〕では半々であり、国公立より私立のほうが教科書を用いる傾向が強いようである。

さて、授業科目の種類によって教科書使用状況がどう違うか、この点について調べてみよう。教科書の分類はつぎの表にあるとおりの13種類である〔表 36〕。この表で()で囲んだ

表 35 教科書を使うかどうか（無回答を除いた）

[学 部]		教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 学	そ の 他
教科書										
大学群										
国 公 立	使 う	20	59	11	32	19	16	27	7	3
	使わない	16	85	29	29	27	8	31	4	3
私 立	使 う	3	4	4	44	1	11	41	6	8
	使わない	—	10	8	24	2	3	32	9	4

表 36 教科書, 副読本の利用状況

() 内は副読本

	[学 部]		教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 学	そ の 他	計
	学 科											
1	統計学概論		4(6)		1	(1)	1(1)	14(7)	4(3)	1	25(28)	
2	確 率 論	1	6(6)	(5)	3(5)			1			11(16)	
3	数理統計学Ⅰ	13(1)	51(45)	10(5)	28(13)	11(18)	15(4)	15(8)	3(3)	3(1)	149(108)	
	同Ⅰ (演習)		3(2)	1	3		1	1		(1)	3(3)	
	同Ⅱ	1	2(6)	1(2)	10(8)	(5)	(1)	5(5)	(1)	1(1)	20(29)	
4	社会学関係		5(3)			1(1)		1(2)	(2)		7(8)	
5	教育・心理 関 係	6(2)	8(4)						1(1)		15(7)	
6	経営経済関係	1	(2)	1	(1)	1(4)		19(15)	3(2)		25(24)	
7	農 林・水 産 関 係					6(2)					6(2)	
8	品質管理関係	4(1)	4(1)		23(6)	(1)	1	2			34(9)	
9	医学・生物 関 係					(1)	3(3)			1	4(4)	
10	体 育 関 係		1							3(1)	4(1)	
11	公衆衛生関係				1		2(1)			(1)	3(2)	
12	電 子 計 算 機 関 係		4(1)								4(1)	
13	その他数表、 関連数学など			1	1(1)		2	(2)	(1)	1(1)	5(5)	
計			26(4)	88(76)	13(13)	70(34)	19(32)	25(10)	58(59)	11(13)	11(6)	321(247)

数字は副読本の数である。教科書, 副読本とも1つの授業に, たとえば2つの教科書を用いているとき, また1つの本が2つの授業で教科書として用いられているとき, このような場合, 延べ数2を教科書, 副読本の利用数として表に示した〔表 36〕。〔学部〕の規模(回答のあった大学数)によることは勿論であるが, 教科書が最も多くつかわれている〔学部〕は〔学芸〕であって, これに次いで〔工学〕, 〔経済〕, 〔教育〕, 〔医学〕, 〔農学〕, 〔理学〕などの順となっている。副読本も〔学芸〕で最も多くつかわれていて, 以下〔経済〕, 〔工学〕, 〔農学〕などの順となっている。また, 学科の13種類からみると, 最も多いのは数理統計 I (統計初歩) であって, これがぬきんでいている。2位以下はきわめて少なく, 品質管理関係, 統計学概論, 経営・経済関係, 数理統計学 II などとなっている。更に詳しく, どのような図書が, どの〔学部〕で, 教科書として, また副読本として使われているかは, 付録に掲げておいた。ここには, 教科書か副読本に使われている図書が何種か(図書数)を, 13分類の各項について求めるとともに, そのうちで二つ以上の授業で使われている図書が何種か, 唯一の授業で使われている図書が何種かを表にして示した〔表 37〕。

表 37 教科書, 副読本の種類

	図書数	教科書		副読本	
		2以上の授業で	唯一の授業で	2以上の授業で	唯一の授業で
統計学概論	23	4	7	4	14
確率論	16	3	2	3	8
数理統計学 I	74	27	24	20	32
同 I (演習)	6	2	3	—	3
同 II	26	3	7	8	13
社会学関係	7	2	3	2	3
教育心理関係	10	5	5	2	2
経営, 経済関係	31	4	15	3	13
農林水産関係	6	1	4	—	2
品質管理関係	22	10	9	1	6
医学, 生物関係	5	1	2	1	2
体育関係	3	1	2	—	1
公衆衛生関係	4	—	3	—	2
電子計算機関係	5	—	4	—	1
その他数表関連数学など	10	—	5	1	5

結 語

大学における統計教育のあり方が、いろいろな観点で問題となっているときなので、この調査は大学統計教育の実状把握のために行なった。調査対象となった国公立大学の協力をえて、はじめて実施できたのである。調査企画後、実施に入って既に一年になるが、ようやく一通りの整理を終えたので以下に報告し、ご協力くださった大学関係の方々へのお礼としたい。また、これまでに存外の手数がかかり、この仕事にしばられることが多く、末綱所長をはじめ研究所の方々に何かとお世話になった。ここに記して謝辞とする。なお、この仕事の企画から報告書作成まで小田元子が終始参画したことを記す。

(統計数理研究所)

表

表 2 大学群別，該当(学部)をもつ大学数と回答大学数——ただし，公立，私立大学は回答をよせた大学のための数字である。() 内は回答をよせた大学数

大学群	[学部] 大学数	教 育	学 芸	理 学	工 学	農 学	医 学	経 済	文 学	そ の 他
		学	学	学	学	学	学	学	学	学
私 立	72	1 (1)	5 (5)	6 (4)	23 (17)	4 (3)	17 (14)	37 (34)	26 (12)	16 (9)
公 立	24	—	2 (2)	2 (2)	4 (2)	3 (2)	11 (10)	8 (7)	4 (2)	6 (3)
国 立	69	27 (18)	41① (38)	16 (15)	39② (26)	32③ (24)	22④ (10)	20⑤ (18)	16⑥ (7)	5⑦ (2)
U ₁	8	7 (6)	1 (1)	8 (8)	8 (6)	7 (7)	8 (3)	8 (8)	8 (4)	—
U ₂	10	8 (4)	6 (6)	4 (3)	10 (6)	5 (5)	10 (5)	1 (1)	4 (2)	—
U ₃	14	7 (6)	13 (12)	1 (1)	14 (9)	8 (4)	—	3 (2)	1 (—)	—
U ₄	12	3 (1)	12 (10)	—	—	8 (5)	3 (2)	6 (6)	—	—
U ₅	8	1 (—)	8 (8)	—	—	—	—	—	—	—
U ₆	7	—	—	—	7 (5)	1 (1)	—	—	—	—
U ₇	10	1 (1)	1 (—)	3 (3)	—	3 (2)	1 (—)	2 (1)	3 (1)	5 (2)

注：表中の ①，②，……，⑦ を以下に示した。

①		②		③	
学 芸 学 部	25(22)	工 学 学 部	35(23)	農 学 学 部	27(19)
文 理 学 部	14(13)	理 工 学 部	1()	水 産 学 部	4(4)
教 養 学 部	1(1)	基 礎 工 学 部	1(1)	畜 産 学 部	1(1)
文 教 育 学 部	1(0)	電 気 通 信 学 部	1(1)	獣 医 学 部	1(1)
		繊 維 学 部	2(2)	園 芸 学 部	1(1)
	41(38)	工 芸 学 部	1(1)	水 畜 産 学 部	1(10)
		鉱 山 学 部	1(0)		
		I 学 部 } 併置	1(1)	農 学 部 } 併置	1(1)
		繊 維 学 部 } 併置	1(1)	水 産 学 部 } 併置	1(1)
		工 芸 学 部 } 併置	1(1)	農 学 部 } 併置	1(1)
		工 学 部 } 併置	1(1)	求 産 学 部 } 併置	1(1)
		基 礎 工 学 部 } 併置	1(1)		
			39(26)		32(24)

④		⑥		⑤	
医学部	21(9)	経済学部	18(16)	文学部	11(5)
薬学部	9(4)	商学部	2(1)	人文学部	1(1)
歯学部	2(1)	経営学部	1(0)	法文学部	3(2)
医学部}併置 薬学部}	7(2)	政経学部	1(1)	法学部	9(2)
		社会学部	1(0)	文学部}併置 法学部}	8(8)
医学部}併置 薬学部}	1(1)	経済学部}社会 商学部}	1(0)		16(7)
医学部}併置 歯学部}	1(0)	経済学部}併置 経営学部}	1(0)	⑦	
	22(10)		20(18)	商船学部	2(1)
				体育学部	1(1)
				家政学部	2(0)
					5(2)

表 20 授業担当者の専攻学科はどうなっているか

a: [学部], b: 大学群, c: 授業科目群, d: 専攻科目

a \ b \ c \ d			数 学	数理統計学	学有 部統 固計	学有 部学 固科	不 明
教 育	U ₁	L ₁	20	20	—	70	—
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	20	—	—	80	—
		L ₄	—	—	—	—	100
	U ₂ ~U ₃	L ₁	67	—	—	33	—
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	20	—	20	60	—
		L ₄	—	—	—	—	—
	国公立	L ₁	46	4	—	46	4
		L ₂	—	—	—	100	—
		L ₃	15	—	—	62	23
		L ₄	—	—	—	—	—
	私立	L ₁	—	—	—	—	100
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	—	—	—	100	—
		L ₄	—	—	—	—	—
学 芸	U ₂ ~U ₃	L ₁	29	18	—	9	44
		L ₂	9	18	—	—	73
		L ₃	10	—	—	60	30
		L ₄	20	—	—	—	80
	U ₄ ~U ₅	L ₁	50	30	—	3	17
		L ₂	18	64	—	—	18
		L ₃	5	—	—	90	5
		L ₄	100	—	—	—	—

学	国公立	L ₁	42	26	3	6	23
		L ₂	20	60	—	—	20
		L ₃	9	—	11	69	11
		L ₄	30	—	—	—	70
芸	私立	L ₁	40	—	—	30	30
		L ₂	—	30	—	—	70
		L ₃	—	—	—	100	—
		L ₄	—	—	—	—	—
工	U ₁	L ₁	30	30	—	50	—
		L ₂	—	60	—	40	—
		L ₃	60	—	—	40	—
		L ₄	—	—	—	100	—
	U ₂ ~U ₃	L ₁	57	7	—	36	—
		L ₂	10	10	—	70	—
		L ₃	—	—	—	100	—
		L ₄	—	—	—	100	—
	U ₆	L ₁	60	—	—	—	40
		L ₂	40	—	—	40	20
		L ₃	30	—	—	30	50
		L ₄	—	—	—	—	—
学	国公立	L ₁	46	11	—	25	18
		L ₂	14	21	—	57	7
		L ₃	36	—	—	45	18
		L ₄	—	—	—	100	—
	私立	L ₁	22	22	—	4	52
		L ₂	6	9	6	17	63
		L ₃	13	—	27	—	60
		L ₄	—	—	—	50	50
農	U ₁	L ₁	—	—	—	100	—
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	—	—	20	60	20
		L ₄	—	—	—	—	—
	U ₂ ~U ₃	L ₁	—	—	—	91	9
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	—	—	50	50	—
		L ₄	—	—	—	—	—
学	国公立	L ₁	6	6	6	77	6
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	—	—	33	60	10
		L ₄	—	—	—	—	—
	私立	L ₁	—	—	—	—	—
		L ₂	—	—	—	—	—
		L ₃	—	—	—	70	30
		L ₄	—	—	—	—	—
	U ₁	L ₁	—	9	82	9	—
		L ₂	—	—	100	—	—
		L ₃	8	—	100	—	—
		L ₄	—	—	75	17	—

経	国公立	L ₁	15	12	45	12	15
		L ₂	—	—	60	20	20
		L ₃	17	—	43	23	17
		L ₄	—	—	50	—	50
済	私立	L ₁	18	4	22	27	29
		L ₂	70	—	—	—	30
		L ₃	17	—	51	—	32
		L ₄	—	—	—	100	—

表 26 授業受講者数

〔教 育〕

* 授業がただ一つするとき資料そのもの

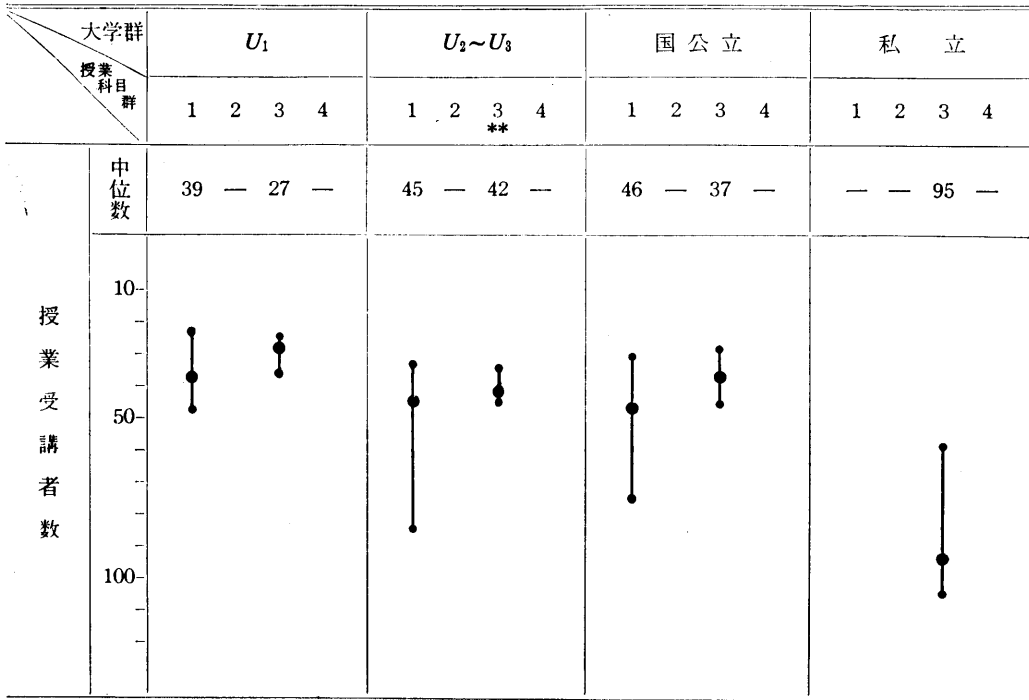
** 授業が二つするとき平均値と資料そのものを示した

大学群 授業科目群	U ₁				U ₂ ~U ₃				国公立				私立			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中位数	27	—	22	—	39	—	39	—	34	12	22	—	32	—	45	—
授業受講者数																

〔学 芸〕

大学群 授業科目群	U ₂ ~U ₃				U ₄ ~U ₅				国公立				私立			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中位数	35	17	39	13	53	18	22	35	51	21	29	14	45	17	45	—
授業受講者数																

〔農 学〕



〔経 済〕

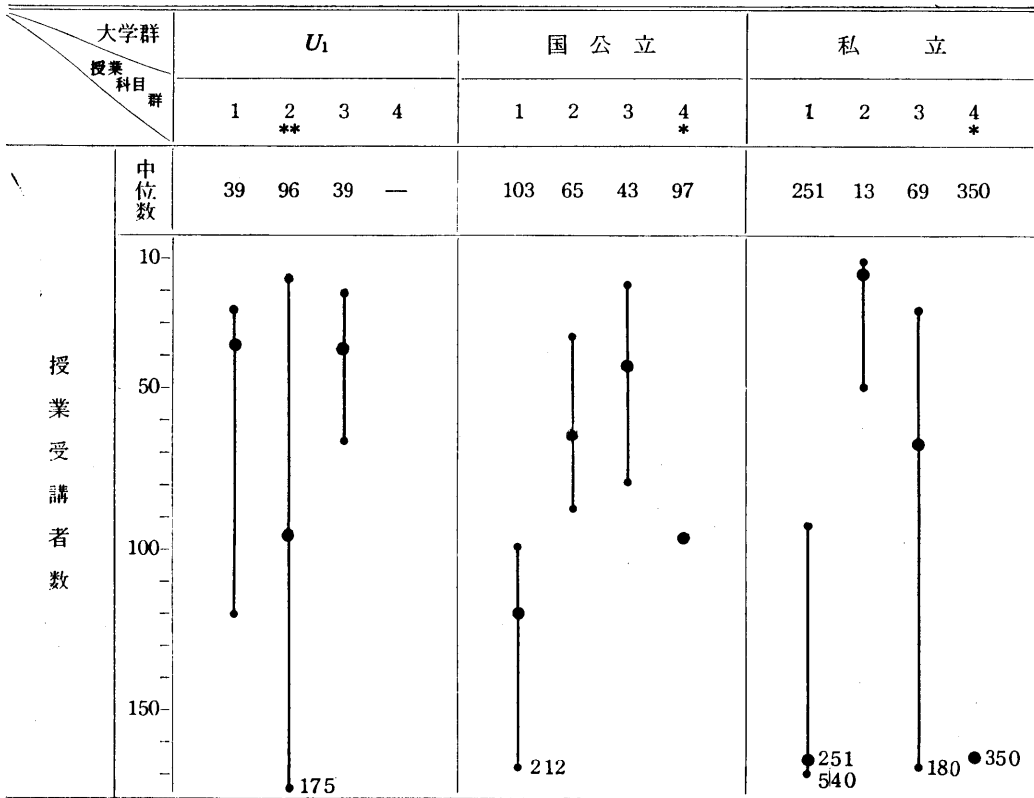


表 34 授業は講義のみの形態か講義や演習の時間数は

〔教 育〕																	
授業形態	授業科目群	U ₁				U ₂ ~U ₃				国 公 立				私 立			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業形態	講義のみ	90	—	50	—	50	—	100	—	64	100	69	—	100	—	100	—
	演習を含む	10	—	30	—	33	—	—	—	25	—	15	—	—	—	—	—
	独立に演習をもつ	—	—	—	—	11	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—
授業の時間数	2 単 位	30	—	50	—	33	—	80	—	32	—	62	—	—	—	—	—
	3 単 位	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4 単 位	70	—	50	—	44	—	30	—	54	100	38	—	100	—	100	—
	そ の 他 (4 以上)	—	—	—	—	22	—	—	—	14	—	—	—	—	—	—	—

〔学 芸〕																	
授業形態	授業科目群	U ₂ ~U ₃				U ₄ ~U ₅				国 公 立				私 立			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業形態	講義のみ	71	82	100	67	68	80	86	100	57	72	92	80	60	70	—	—
	演習を含む	19	9	—	17	21	10	14	—	17	8	8	10	40	—	100	—
	独立に演習をもつ	6	—	—	—	9	10	—	—	8	16	—	—	—	10	—	—
授業の時間数	2 単 位	13	36	40	70	18	10	43	—	13	28	40	60	—	—	—	—
	3 単 位	6	18	—	20	3	—	5	—	4	8	3	10	10	—	100	—
	4 単 位	71	27	60	20	56	70	38	100	66	36	46	30	70	70	—	—
	そ の 他	10	18	—	—	24	20	14	—	17	28	10	—	10	30	—	—

〔理 学〕																	
授業形態	授業科目群	U ₁				U ₂ ~U ₃				国 公 立				私 立			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業形態	講義のみ	20	60	100	100	80	100	100	100	67	63	100	100	50	60	100	100
	演習を含む	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	—	—	—
	独立に演習をもつ	80	10	—	—	20	—	—	—	33	19	—	—	—	40	—	—
授業の時間数	2 単 位	—	—	50	—	10	—	100	100	13	13	50	60	20	—	—	—
	3 単 位	20	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—
	4 単 位	—	80	50	100	60	100	—	—	58	63	50	40	80	40	100	100
	そ の 他	80	20	—	—	30	—	—	—	25	25	—	—	—	60	—	—

〔工 学〕

大学群 授業科目群		U ₁				U ₂ ~U ₃				U ₆				国 公 立				私 立			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業形態	講義のみ	70	90	100	100	53	90	100	100	20	50	100	—	59	82	91	100	58	79	60	100
	演習を含む	30	10	—	—	40	10	—	—	40	20	—	—	30	11	—	—	11	16	20	—
	独立に演習をもつ	—	—	—	—	7	—	—	—	40	30	—	—	11	7	9	—	31	5	10	—
授業の時間数	2 単 位	70	60	20	50	33	60	—	—	—	20	—	—	30	48	9	30	—	—	27	—
	3 単 位	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	40	—	—
	4 単 位	—	30	80	50	53	30	100	100	100	60	100	—	56	41	82	70	79	58	53	50
	そ の 他	—	10	—	—	13	10	—	—	—	20	—	—	11	11	9	—	21	2	20	50

〔農 学〕

大学群 授業科目群		U ₁				U ₂ ~U ₃				国 公 立				私 立			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業形態	講義のみ	100	—	80	—	64	—	—	—	88	—	55	—	—	—	30	—
	演習を含む	—	—	20	—	29	—	—	—	12	—	45	—	—	—	70	—
	独立に演習をもつ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
授業の時間数	2 単 位	90	—	60	—	64	—	—	—	71	—	46	—	—	—	30	—
	3 単 位	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4 単 位	10	—	40	—	21	—	—	—	26	—	46	—	—	—	30	—
	そ の 他	—	—	—	—	14	—	—	—	3	—	9	—	—	—	30	—

〔経 済〕

大学群 授業科目群		U ₁				国 公 立				私 立			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
授業形態	講義のみ	80	50	80	—	85	80	71	100	96	100	85	—
	演習を含む	—	—	—	—	9	—	4	—	4	—	—	—
	独立に演習をもつ	10	—	10	—	3	—	4	—	—	—	2	100
授業の時間数	2 単 位	10	50	20	—	3	20	18	—	4	—	4	—
	3 単 位	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—
	4 単 位	80	50	70	—	91	80	61	100	79	100	77	100
	そ の 他	10	—	10	—	6	—	21	—	15	—	17	—

資 料

イ. 調査関係書類

ロ. 大学群

ハ. 教科書と副読本

ニ. 大学における統計教育に関する文献

イ. 調査関係書類

(1) 各国立大学長にあてた統計教育についての照会文書は、記の事項を除いては各学部長あての文書と同じである。よって本文は(2)に譲る。

(2) 各学部長にあてた文書は、調査票(カード形式)とともに一括し各大学長にあてて郵送した。

各学部長殿

数研庶第33号 昭和39年2月14日

統計数理研究所長 末 綱 恕 一

統計教育について(照会)

時下益々御清祥の趣きにてお慶び申し上げます。

さて、当研究所は「統計に関する数理及びその応用を掌り、あわせてその研究連絡をはかる」目的で設立された文部省所轄の研究機関であり、その事業の一つとして統計の研究指導および普及を行なっています。従来、統計教育に深い関心をよせていますが、今回は日本統計学会の要望もあって、大学における統計に関する教育の実態を把握するために調査を計画いたし、現在国立の各大学に設けられている統計関係の講義科目について調査いたしたいと思います。

つきましては、御多用中まことに恐縮に存じますが、下記によりご協力いただきたくお願いいたします。

なお、恐れ入りますが、整理の都合上、昭和39年3月15日頃までにご回答くださるよう何卒お願いいたします。

1. はじめに貴学部における「統計に関する授業科目」(一覧表をご参照ください。)すべてをお調べいただきます。(ただし、理学部の数学科を除きます。)各授業科目に一枚のカードを対応させて、カード(表)の調査事項に記入していただきますが、この作業は教務担当者が適当かと思われます。以下の調査事項(カード裏)は授業担当教官でないとお答えいただけないと思われますから、各授業の担当教官にお答えいただけるようお取計らいください。

2. 同封の調査書類

(a) カード 枚 授業科目名(大学名、学部名、学科名、講座名)を記入してあります。この記入は国立大学の講座及び学科目調、昭和37年5月現在(文部省学術局大学課編)によるものです。

(b) カード 枚 いずれも記入してありません。

(c) 補助用紙 枚 各授業科目の教授内容をカードの22項に記入していただきますが、スペースが足りないときこの紙を使ってください。

3. 回答作業順序

貴学部における「統計に関する授業科目が(a)カードですべてであるかどうか、記載事項に誤りがないかどうか検討してください。(a)カードの記載事項に誤りがあれば訂正し、また(a)カード以外に「統計に関する授業科目」がある場合は(b)カードで補足してください。その上で、各授業科目ごとに次項にお答えください。

(1) 担当教官について(カード(表)に記入する事項)

(2) 授業時間について(同 上)

(3) 授業対象について(同 上)

(4) 授業内容について(カード(裏)に記入する事項)

(1)の一部(9項専攻学科)と(4)については授業担当教官にお答えいただくようお願いいたします。

4. 授業担当教官に授業内容についてお答えいただいた際、市販でない教科書をご寄贈いただける場合があります。まことに恐縮ですが郵送してください。

また、貴学部における要覧(大学一本にまとめたものは不要)、学生便覧、授業時間割表もご寄贈いただきたく、あわせてお願いします。

5. カード(表)の記入要領

(1) 担当教官について(6項—9項)

6項に氏名をご記入の上、7項、8項では該当するものを○印で囲んでください。9項では専攻された主な学科を講座名程度の、内容の分りやすい名称を用いて書いてください。専攻学科が多いときは二つまで書いてください。

(2) 授業時間について(10項—13項)

10項には週に行なう授業時限数を記入してください。1時限は大学によって違いますから11項に正味の時間数を分単位で表わしてください。その授業を何週続けるかを12項にご記入ください。なお、授業時間中に演習を行なう場合は、演習に使う時間数を13項にご記入ください。

(3) 授業対象について(16項—19項)

はじめに、専門科目か教養科目かを16項の該当項を○印で囲んでお答えください。

つぎに受講している学生が、どのような(学部、学科、学年)学生かを17項にご記入の上、その人数を18項に、そのうちの女子学生数を19項にご記入ください。ただし聴講生、研究生および専科生を除きます。

最後に以上記入した対象学生のうち、当授業科目の主たる対象学部・学科・学年の前に○印をつけてください。

統計に関する授業科目の一覧

統計に関する授業科目とは、統計に関する理論や方法あるいはその応用に関する授業科目であり、電子計算機の統計への利用法に関する授業科目も含めます。次のような授業科目は調査の対象となります。

注1 理学部の数学科及び文理学部の数学科、理学科、理学専攻科、自然科学課程はすべて除きます。

注2 演習が授業科目と独立している場合は、カードを別にして御記入ください。

注3 講座外の授業科目の場合は4項に(外)と御記入ください。

一般統計	確率論	計測数学	医用統計	確率論統計学	工業経営
衛生統計	管理統計	工場管理	応用推計	教育統計	工場計画
応用推計学	教育心理統計	工場品質管理	応用統計	経営数学	社会調査
オペレーションズ・リサーチ		経営統計	社会統計	確率及び統計	経済計測学
森林管理学	確率過程論	経済統計	森林統計	確率統計	計測工学
実験計画及品質管理					

カード(裏)の記入要領

はじめに、教科書(市販図書、講義用プリントなど)をお使いになるかどうかを20項に該当項を○で囲んでお答えください。

つぎに、教授内容についてうかがいますが、お答をいただくために市販図書(次の(ロ)の場合を除く)を利用させていただきます。

(イ) 教科書が市販図書の場合、それを21項にご記入ください。

(ロ) 教科書が市販図書でなく、ご寄贈いただける場合、21項に寄贈とご記入ください。

(ハ) 教科書が市販図書でなく、ご寄贈いただけない場合および教科書を使わない場合、教授内容を示しやすい市販図書を21項に例示してください。

その上で、各場合とも、目次のどの節(章でなく)を教授なさるか、どのような補足をなさるか

22 項に簡単にお示しください。最後に、授業に際し、学生にご推薦・ご紹介なさった市販図書がありましたら 23 項にご記入ください。

なお、教授内容をご記入の際、22 項のスペースだけでは不足の場合、補助用紙をお使いください。

(3) 公立、私立大学に対する調査では、予め調査対象とする授業をつかんだ上で、それらについて回答を求めることとした。そこで、初めに各大学長にあてて下記の資料の寄贈について、昭和 39 年 4 月 15 日付文書で依頼した。

1. 学生便覧（昭和 38 年度，昭和 39 年度）

2. 時間割（同 上）

3. 大学要覧（同 上）

(4) 公立、私立大学の各学部長にあてた文書は、調査票（カード形式，(3) によって選定した授業について）とともに一括し各大学長にあてて郵送した。大学長あての文書は、記の事項を除いては学部長あての文書と同じである。ここには学部あての文書のみを掲げておく。

1. 同封の調査書類

(a) カード、授業科目名（大学名，学部名，学科名，講座名）を記入したカードと未記入のカードがあります。記入したカードは貴学の資料（大学要覧，時間割，学生便覧類）から、貴学における「統計に関する授業」を選定し、各授業に 1 枚を対応させたものです。

(b) カード（表）記入要領

(c) カード（裏）記入要領

2. 回答作業順序

(a) 貴学部において昨年度（昭和 38 年度）に行われた「統計に関する授業」が私共が記入したカードのほかにありましたら、未記入のカードを用いてください。なお記入カードに誤りがありましたら補足訂正してください。

(b) カード（表）記入 この作業は教務担当者が適当かと思われます。

(c) カード（裏）記入 この作業は授業担当の先生でないとお答えいただけないと思われます。授業担当教官に授業内容についてお答えいただいた際、市販でない教科書を授業担当の先生からご寄贈いただける場合があります。まことに恐縮ですが郵送してください。

(5) 調査票（カード形式）

表

333-1063		HANKOKU																			
1.	2.	3.	4.																		
大学	学部	学科	講座																		
授業科目	担当教官	7. 教授、助教授、講師、助手																			
5.	6.	8. 専任、兼任、臨時																			
		9. 専攻																			
授業時間	10. 時間/週	受講者	数	女子数																	
1. 時限	11. 分	17.	18.	19.																	
期間	12. 週																				
13. 演習時間数																					
14.	15.																				
16. 専門科目、教養科目																					

20. 教科書 使う 使わない	21. 書名		23. 書名	
	著者		著者	
	発行所		発行所	
22. 教授内容				
T.S.K				

ロ. 大学群

調査では元来は国公立、私立のすべての大学を対象とした。つぎに、回答をえた大学を掲げ、この調査に対する各大学の協力への謝意にしたい。

(1) 国立大学は7群 $U_1 \sim U_7$ に分けて統計を求めたから、この群に分けて掲げる。

U_1 (8大学) 北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、広島大学、九州大学。

U_2 (10大学) 群馬大学、千葉大学、新潟大学、富山大学、信州大学、岡山大学、徳島大学、熊本大学、鹿児島大学。

U_3 (14大学) 岩手大学、秋田大学、山形大学、茨城大学、埼玉大学、横浜国立大学、福井大学、山梨大学、岐阜大学、静岡大学、山口大学、愛媛大学、宮崎大学。

U_4 (12大学) 弘前大学、福島大学、宇都宮大学、三重大学、滋賀大学、和歌山大学、鳥取大学、香川大学、高知大学、長崎大学、大分大学。

U_5 (8大学) 北海道学芸大学、東京学芸大学、愛知学芸大学、京都学芸大学、大阪学芸大学、奈良学芸大学、島根大学、福岡学芸大学。

U_6 (7大学) 東京農工大学、電気通信大学、京都工芸繊維大学、九州工業大学。

U_7 (7大学) 東京水産大学、帯広畜産大学、小樽商科大学、東京商船大学、お茶の水女子大学、奈良女子大学および東京教育大学。

(2) 公立大学

札幌医科大学、高崎経済大学、東京都立大学、横浜市立大学、静岡薬科大学、岐阜薬科大学、岐阜県立医科大学、京都府立大学、京都府立医科大学、大阪府立大学、大阪市立大学、大阪女子大学、神戸医科大学、神戸商科大学、兵庫農科大学、姫路工業大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、下関市立大学、高知女子大学、福岡女子大学、北九州大学、九州歯科大学、熊本女子大学、

(3) 私立大学

酪農学園大学、岩手医科大学、東北学院大学、千葉工業大学、千葉商科大学、日本医科大学、日本

歯科大学, 日本女子大学, 東邦大学, 東海大学, 東京家政大学, 東京経済大学, 東京歯科大学, 東京女子大学, 東京女子医科大学, 東京女子体育大学, 東京慈恵会医科大学, 立教大学, 早稲田大学, 学習院大学, 高千穂商科大学, 拓殖大学, 津田塾大学, 武蔵大学, 武蔵工業大学, 大妻女子大学, 慶応義塾大学, 工学院大学, 国学院大学, 国際基督教大学, 青山学院大学, 亜細亜大学, 共立女子大学, 明治大学, 明治学院大学, 明治薬科大学, 芝浦工業大学, 昭和薬科大学, 昭和女子大学, 女子栄養大学, 実践女子大学, 成蹊大学, 聖心女子大学, 成城大学, 神奈川大学, 関東学院大学, 日本福祉大学, 中京大学, 南山大学, 金城学院大学, 同志社大学, 同志社女子大学, 竜谷大学, 京都薬科大学, 関西大学, 大阪薬科大学, 大阪工業大学, 近畿大学, 桃山学院大学, 関西学院大学, 神戸女子薬科大学, 甲南大学, 広島商科大学, 松山商科大学, 福岡大学, 九州産業大学, 西南学院大学, 熊本商科大学, 鹿児島経済大学,

ハ. 教科書と副読本

全国の大学（国公立，私立）において統計教育につかわれている市販図書を13種に分けて掲げた。2つ以上の授業で使われた場合に◎印，唯1つの授業で使われた場合に○印をつけた。各図書の最後につけた教，学，理，工，農，医，経，文，他は各〔学部〕の頭文字であって，これによって各図書がどの〔学部〕の授業に使われたかを示した。

統計学概論関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	足利末男	統計のうそまこと	三一書房		○	学
2	有沢内藤	統計学	弘文堂		○	経
3	大橋野村	統計学総論(上)	有信堂	◎	◎	経, 文
4	東京学芸大学	統計の教養	岩崎書店	○	○	学, 医
5	内藤勝	統計学	東大出版		○	学
6	中村隆英	統計学(上)	東大出版	○	○	学, 他
7	蜷川虎三	統計学概論	岩波		◎	経
8	増山元三郎	推計学の話し	朝日新聞社		○	学
9	美濃部亮吉	統計学おとけ	生産性本部		○	学
10	森田優三	統計学概論	日本評論社	◎	◎	学, 経, 文
11	森田優三	統計学汎論	日本評論社		○	経
12	米沢治文	講要統計学	日本評論社	◎		学, 文
13	安田敬二	統計学概論	福岡大学	○	◎	経, 工, 医
14	高木秀玄	教養統計学	研啓文社	◎	○	学, 経, 文
15	平山政市	統計学概論	荘文社		○	文
16	西田俊夫	近代統計入門	中央経済社	○		学
17	藤本幸太郎	統計学研究者	千倉書房		○	経
18	R. G. D. Allen (訳)	済め統計学	千倉書房		○	経
19	フラスケンパー	一般統計学	新報統計協会		○	農
20	中川友長	統計学通論	中央経済社	○		経
21	宗藤圭三	現代統計学	有斐閣	○		経
22	江宗高	統計学要法	広文堂	○		文
23	藤木圭秀	統計学要法	啓文社		○	文

確 率 論

	著者又は編者	教 科 書 名	出 版 社	教科書	副読本	使った学部
1	伊 藤 清	確率過程論(現代応用数学講座)	岩 波		◎	理
2	伊 藤 清	確 率 論	岩 波	○		理
3	伊 藤 清	確 率 論 の 基 礎	岩 波		◎	学, 理
4	Kenney	Finite Markov Chain	Princeton Univ.		○	学
5	河 田 敬 義	確 率 論	共 立		○	学
6	国 沢 清 典	近 代 確 率 論	岩 波	◎	○	学
7	末 綱 恕 一	確 率 論	岩 波		○	工 教, 学, 経
8	赤 撰 也	確 率 論 入 門 Lectures on Ergodic Theory	培 風 館	◎		工, 理
9	Halmos	An Introduction to probability theory and its application	日本数学会		○	
10	W. Feller	確率論とその応用	John Willy Sons. U.Y.	◎	○	学, 工
11	W. Feller (訳)	確率過程入門	紀 国 屋		◎	学, 理,
12	パートレット	The Elements of probability	Cambridge Univ.		○	工 学
13	H. Cramér	Modern Probability Theory and its Applications	John Wiley	○		工
14	E. Parzen		John Wiley		○	工

数 理 統 計 I

	著者又は編者	教 科 書 名	出 版 社	教科書	副読本	使った学部
1	石 川 栄 助	実用近代統計学	槇 書 店	○		学
2	S. S. Wilks(訳)	数 理 統 計 学	春日出版社		◎	学 教, 学, 医, 経,
3	S. S. Wilks(訳)	初 等 統 計 解 析	東 大 出 版	◎	◎	他 学
4	宇 田 川 正 友	確率と統計(初等数学)	岩 崎 書 店	○		学
5	裏 西 久 男 他	統 計 解 析 入 門	広 川 書 店	◎	○	学
6	遠 藤 健 児	確 率 と 統 計 解 析	槇 書 店	○	○	学, 農
7	小 川 潤 次 郎	近代数理統計学序説	恵 文 堂	○	○	学, 工
8	奥 川 光 太 郎	数 理 統 計 学 概 説	学術図書出版社	◎	◎	教, 学, 理, 工,
9	河 田 竜 夫	確 率 と 統 計	朝 倉 書 店	◎	◎	農 学, 理, 工
10	河 田 竜 夫	統 計 学 概 論	文 耀 社		○	学
11	河 田・国 沢	現 代 統 計 学	広 川 書 店	◎	◎	学, 理, 工, 医,
12	河 田・丸 山	数理統計(基礎課程)	裳 華 房	◎	○	学 経, 理
13	北 川・稲 葉	数 理 統 計 学	共 立 出 版	○		学
14	北 川・稲 葉	統計学通論(基礎数学)	共 立 出 版	◎	○	教, 学, 理, 工,
15	工 藤 弘 吉	数 理 統 計 学	共 立 出 版	○	○	農, 医, 経, 文
16	H. Cramér	Mathematical methods of Statistics	Princeton Univ., Press.	◎	◎	理 学, 工
17	近 藤 正 巳	推 計 学 入 門			○	農
18	佐 藤 良 一 郎	数 理 統 計 学	培 風 館		◎	学
19	佐 藤 良 一 郎	数理統計学概説	培 風 館	○		工
20	M. R. Spiegel	Theory and Problems of Statistics	Schaum Publishing Company. N.Y.	○		農
21	L. Schmetterer	Mathematische Statistik	Springer-wier		○	学
22	数学同人研究会	一般教育統計概論	槇 書 店	◎	◎	教, 学, 工, 経
23	洲之内源一郎, 宇 野 利 雄	大 学 教 課 統 計 学	養 賢 堂	◎	○	工, 農, 医
24	G. W. Snedecor (訳)	統 計 的 方 法	岩 波	◎	◎	学, 理, 工, 農,
25	竹 内 啓	数 理 統 計 学	東洋経済新報社	○	◎	医 学, 工
26	淡 中 忠 郎	統計学の理論と応用	養 賢 堂	◎	○	教, 学, 農, 医

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
27	W. J. Dixon, and Frank J. Massey	Introduction to Statistical Analysis	McGraw-Hill		○	農
28	寺田一夫	推測統計法に	朝倉書店	◎	◎	工, 農, 医, 文
29	東洋レーヨン	ステープ方式による統計的方法	日科技連		○	工
30	Q C 委員会	数理統計学初歩	池田書店		○	学
31	鍋島・横池	数理統計学要説	培風館	◎	◎	学, 学, 工, 農, 医, 経
32	日本教育大学協会	統計学	日本教育大学協会通信教材部	○	○	教, 学
33	林周二	統計学講義	丸井出版	◎	◎	学, 工, 経, 文
34	福田治郎	応用統計入門	日出版	◎		工, 学, 経, 文,
35	P. G. Hoel (訳)	初等統計学 Introduction to Math. Stat.	培風館	◎	○	他, 理
36	Hozy-Craig-Iowa	統計数理の基礎理論	McMillan Company	○		学
37	松下嘉米男	統計入門	朝倉書店		○	学, 工, 医, 経
38	松下嘉米男	確率及統計	岩波	◎	◎	教, 学, 理
39	丸山儀四郎	応用推計学	共内田老鶴社	○	◎	工
40	三上操	統計分析入門	養賢堂	◎		農
41	水島宇二郎	近代統計概論	培風館	○	◎	工, 農, 経
42	宮沢光一	近代数理統計学概論	培風館	◎	○	学
43	宮沢光一	近代数理統計学通論	共立	○	◎	学, 経
44	宮沢光一	Principles of Stat. Techniques	Cambridge Univ.			学
45	Moore	初等数理統計学	培風館	◎	◎	理, 工, 農, 経
46	森口繁一	統計的方法	規格協会	◎	○	工
47	森口繁一	新統計学入門	共立出版		○	農
48	安川悠太郎	統計学要論	春秋社	○		学
49	山田欣一	要説統計学	明文書房	◎		理, 農, 医
50	山之周行	統計学入門	芦書房	◎		学, 農
51	横山辰夫	統計概論	日新出版	◎	○	教, 他
52	野中・笹井	統計入門	技研社	◎		工, 医
53	遠藤健児外	統計数学	東大出版	◎		工
54	朝香鉄一	統計解析	規格協会		○	工
55	朝香鉄一	Sampling Techniques	John Wiley	○	◎	工, 経
56	W. G. Cochran	近代統計入門	森比出版	○		工
57	小川・池田	数理統計学入門	科学新興社		○	医
58	ホーエル(訳)	統計推測論序説	有斐閣	○		医
59	辻博	実用統計入門	統計の友社		○	経
60	森数樹	数理統計学	裳華房		○	文
61	河田敬義	推測統計学	岩波		○	文
62	北川敏男	確率及び統計	コロナ社		○	文
63	印東太郎	教養としての確率統計	フタバ書店		○	工
64	梯鉄次郎	新統計学	共立	○		医
65	安川数太郎, 常	統計と推計の理論	有斐閣		◎	学, 経
66	内山守秀	Methods of Statistical Analysis	タトル社	○		医
67	高木玄	An Introduction to Probability Theory and Mathematical Statistics	Academic Press		○	学
68	C. N. Gooden	統計学	高山書店	○		経
69	H. G. Tucker	応用統計入門	日刊工業社		○	経
70	森山元治	Statistical Methods	新		○	経
71	福田治郎	Principles of Statistical Analysis	Ronald Press	○	○	経
72	F. Mills					
72	Samuell B. Richmond					

演 習

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
75	宇野利雄	数理統計学演習	共立全書	◎	○	学,理,工,他
76	数学同人研究会	数理統計演習	共立全書		○	学
77	F. W. David, E. S. Pearson	Elementary Statistical Exercises	Cambridge Univ.	○		学
78	福田治郎	例解演習応用統計入門	日刊工業新聞	○		学
79	安川・米田	初等統計学演習	同文書院	◎	○	学,医,経
80	米田桂三	初等統計学演習	同文書院	○		学

数理統計 II

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
81	Ezekiel and Fox	Methods of Correlation and Regression Analysis	John Wiley and Sons, N.Y.		◎	農
82	河田竜夫外	時系列と情報の理論とその応用	日科技連		◎	理
83	Cochran and Cox	Experimental Designs	John Wiley and Sons, N.Y.		○	工
84	清水利信	因子分析	日本文化科学社	○		教
85	田口玄一	実験計画法	丸善	◎	◎	学,工,医
86	津村善郎	標本調査法	岩波	○	◎	学,経,他
87	Demming (訳)	推計学によるデータのまとめ方	岩波		○	農,他
88	R. A. Fisher	Statistical Method for Research Workers	Oliver and Boyd Edinburgh		○	農
89	増山元三郎	小数例の纏め方と実験計画の立て方	河出書房		○	農
90	Sasieni and others (訳)	オペレーションズリサーチの手法と例題	紀伊国屋	◎	◎	工
91	山田欽一	経営数学	朝倉書店		○	学
92	サーティ 山内二郎 (訳)	オペレーションズリサーチの数学的方法	紀伊国屋		◎	学,工
93	宮脇一男,長岡崇雄,毛利悦造	待合せ理論とその応用	日刊工業新聞		○	学
94	チャーン マシ (訳)	オペレーションズリサーチ入門	紀伊国屋	◎	◎	理,工,経
95	大前外	オペレーションズリサーチ理論と実際	培風館	○		工
96	北川敏男	実験計画法講義	培風館		◎	工
97	Demming (訳)	標本調査の理論	培風館		○	文
98	西平重喜	標本調査法	岩波	○		経
99	H. B. Mann	Analysis and Design of Experiments	Dover		○	学
100	O. L. Davies	The Design and Analysis of Industrial Experiments	Oliver and Boyd		○	工
101	O. A. Bennett, N. L. Franklin	Statistical Analysis in Chemistry and the Chemical Industry			○	工
102	R. Schlaifen	Introduction to Statistics for Business Decision	McGraw-Hill	○		経
103	馬場吉行	標本調査法の基本問題	有斐閣	○	○	経
104	宇田川銈久	線型計画法概説	広川	○		経
105	友安亮一	統計調査の企画と実施	農林統計協会		○	経
106	Croxton and Cowden	Applied General Statistics	Prentice Hall		○	経

社会学関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	青盛和雄	社会統計学研究	三和書房			学
2	足利末男	社会統計学	ミネルヴァ		○	経
3	西平重喜	統計調査法	培風館	○	◎	学, 経, 文
4	ランドバーク	社会調査			○	学
5	福武直	社会調査	岩波全書	◎	○	学
6	藤沢偉作	社会統計学提要	理想社	○		農
7	関場保	社会統計学序説	長井書房		◎	農, 経

教育・心理関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	青山博次郎	教育統計学	産業図書	◎		学
2	岩原信九郎	教育と心理の統計学	東京日本文化科学社	○	◎	教, 学
3	岩原信九郎	新教育統計法	日本文化科学社	◎		教, 学
4	斎藤幸一郎	例示教育統計学	広応通信	○		教
5	白石一誠	教育統計学	朝倉書店	○	○	教, 文
6	田中寛一, 茂木茂八, 清水利信	学級の子供の診断と指導のための統計法	日本文化科学社	○		教
7	西山・山内・祐宗	教育心理統計法要説	明治図書	◎		学
8	肥田野直他	心理・教育統計学	培風館	◎	◎	学, 文
9	肥田野直他	心理における統計学	培風館	○	○	教
10	四方実一・一谷	教育統計法入門	日本文化科学社	◎		学, 他

経営・経済関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	兼子・亀川	近代経営経済学	明文書房	○		教
2	Karnel	Applied Statistics for Economists	Pitman Pub.		◎	学, 農
3	クライン(訳)	計量経済学	岩波物産	○	◎	農, 経
4	経済企画庁	経済要覧	官庁出版センター	○	○	学, 文
5	C. A. Blyth	The Use of Economic Statistics	Allan and Onwin	○		経
6	F. A. Pearson, K. R. Bennett	Statistical Method Applied to Agriculture Economics	John Wiley and Sons	○	○	農
7	篠原三代平	消費函数	勁草書房	○		経
8	Johnston	Economic Methods	McGraw Hill	○		経
9	土屋圭造	農業経済の計量分析	勁草書房	◎		農
10	福地崇生	計量経済学入門	東洋経済新報社	◎	◎	経
11	森田優三	経済変動の統計分析法	岩波	◎		工, 農, 経
12	森田優三	経済学演習講座統計学	青林書院社	○		工, 農, 経
13	経済企画庁	国民所得推計法—理論と実際	至誠堂		○	経
14	大川一司	国民所得	春秋社		○	文
15	田村市郎, 西治辰雄	経営統計学	啓文社	◎		文
16	高木秀玄	計量経済学	啓文社	○		文, 経
17	A. J. Baumol	Economic Theory and Operations	丸善			経

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
18	近藤次郎	ビジネスマンの 経営数学演習	培風館	○		経
19	藤本幸太郎	経済統計学	清水書店		○	経
20	鈴木涼一	経済統計要論	泉文堂	●	○	経
21	宮沢光一	日本経済の循環	春秋社		○	経
22	H. Hold (訳)	需要予測	"		○	経
23	円山由次郎	需要予測と時系列分析	日本生産部 性本部	○		経
24	一橋大学, 研 究	解説, 日本経済統計	岩波		○	経
25	安田敬二	経済統計論	福岡大学 研究所	○		経
26	Davis	The Analysis of Eco- nomic Time Series	Wiley		○	経
27	西田俊夫	経営のための門 近代統計入門	中央経済社	○		理
28	K. O. Hanson	Managerial Statistics	Prentice Hall	○		経
29	メレット・バ ンノック(訳)	経営と統計	ダインヤモ ンド社		○	経
30	アンドルニ ・バゾニ	科学的経営計画入門	日本生産部 性本部	○		経
31	Corden D. J. and F. E. Croxton	Practical Business Sta- tistics	丸善		○	経

農林・水産関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	川上太左英	農林水産応用数学	槇書店	○		農
2	久保伊津男・ 吉原友吉	水産資源学	共立出版	○		農
3	西沢正久	森林測定学	地球出版社	○		農
4	畑村又好	農業推計学		○		農
5	Finney	Statistical Science in Agriculture	Oliver and Boyd		○	農
6	水島宇三郎	農学実験の統計 分析入門	養賢堂	●	○	農

品質管理等

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	Clunchman and Tears	Introduction to O. R.	Vador Asia Editor	○		工
2	奥津恭	工場における推計学 の問題とそのとき方	共立出版	○	○	教, 農
3	日本規格協会	品質管理便覧	日本規格協会	○		工
4	A. V. Fiegenbaum	Quality Control	McGraw Hill N.Y.	●	●	工
5	水野滋	初等品質管理テキスト	日科技連	●	○	工
6	森口繁一	品質管理	岩波	●	○	学, 工, 経
7	依田浩	品質管理入門	朝倉書店	●		工
8	依田浩	技術者の統計学	宝文館	●		教, 経
9	依田, 白石一誠	研究の進め方, 纏め方	同学社	●		学, 工
10	A. H. Bowker, G. J. Dieberman	Engineering Statistics	丸善	●		教

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
11	日科技連QCリサーチグループ	初等品質管理テキスト	日 科 技 連	◎		工
12	松田武彦, 春日井博	生産在庫のCR技法	培 風 館	○		工
13	池沢辰夫	品質管理と工場統計	日本文化興業	○	○	工
14	Limitris N. Chovafas	Operations Research for Industrial Management	丸 善	○		工
15	鈴木 武	品質管理概説	日刊工業社	◎		工
16	W. A. Shuhwhart (訳)	品質管理の基礎概念	岩 波		○	工
17	Juran	Quality Control Handbook	McGraw Hill		○	工
18	熊坂 浩	品質管理要覧	廠 松 堂	○		工
19	高木金地	統計的品質管理の基礎	産業図書	◎		工
20	加瀬 滋男	オペレーションズ・リサーチの手ほどき	日刊工業社	○		工
21	山口 襄	品質管理読本	"	○		医
22	加藤ライジ	百万人の管理推計学	野田経済社	◎		工

医学・生物学関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	鳥居, 高橋, 土肥共著	医学・生物学の推計学	東大出版		◎	農, 医
2	D. Mainland, 柏木, 高橋 訳	医学における統計的推理	東大出版		○	医
3	川上理一	生物統計学入門	裳華房	◎	○	医, 他
4	吉岡博人	新衛生統計学	金原出版	○		医
5	吉岡博人	医学統計法入門	医学書院	○		医

体育関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	大石三四郎	コーチのための統計学	森北出版	○	○	他
2	大石三四郎	体育統計学	森北出版	◎		学, 他
3	松井三雄	体育測定法	体育の科学社	○		他

公衆衛生関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	井上善十郎	新公衆衛生学	南山堂	○		工
2	厚生統計協会	厚生 の 指標	厚生統計協会	○	○	医, 他
3	立川 清	新衛生統計学上・下	第一出版K.K.		○	医
4	水島治夫	簡約統計学	南江堂	○		医

電子計算機関係

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	中川一郎, 岡田勇	電子計算機入門, 基礎電算機のプログラミング	日刊工業新聞	○		学
2	高須達		日刊工業新聞	○		学
3	森口繁一	ALGOL 入門第1部	日科技連	○		学
4	リチャーズ	デジタル計算機の演算方式	光琳書院	○		学
5	Eldon Whitesitt	Boolean Algebra and its Applications	Addison-Welly Pub.		○	学

その他(数表, 関連数字など)

	著者又は編者	教科書名	出版社	教科書	副読本	使った学部
1	秋月康夫	数学	裳華房		○	理
2	Allen (訳)	経済と経営のための基礎数学	紀伊国屋		○	経
3	窪田忠房	数学演習	培風館		○	他
4	小林善一	数学	培風館	○		他
5	丸善	ORのための基礎数学	丸善		○	経
6	嶺脇四郎	基礎数学	東京歯科大	○		医
7	吉田洋一	数表	培風館		○	文
8	B. Bellman	Introduction to Matrices Analysis	McGraw Hill	○		理
9	森口繁一	数値表 A	日科技連	○	◎	工, 医
10	末綱恕一, 小川潤次郎	理科教養のための数学	朝倉書店	○		工

二. 大学における統計教育に関する文献

- (1) 統計科学研究第2巻第1号(1957年4月)特集号: 大学における統計学の講義: 大学における統計学の講義に対する希望, 大学における統計学の講義の実情
- (2) 石川栄助: 一般教育における統計学とその現状について, 岩手大学一般教育研究報告第1号(昭和39年3月)
- (3) 丘本正: わが国の統計学の現状についての所感, 統計数理研究所刊「統計研究通信第7号(1964. 3. 31)」
- (4) 小川潤次郎: 組織的統計教育確立の急務, 統計数理研究所彙報 No. 15 (1961年3月)
- (5) 小川潤次郎: 日本の統計教育をこのまま放任してよいか, 数学セミナー, 1964年8月号
- (6) 小川潤次郎: 統計教育について, 文部省刊「教育統計」第76号(1962. 4. 20)

〔表〕の目次

- 〔1表〕 大学群の設定規準一覧
- 〔2表〕 大学群別, 該当〔学部〕をもつ大学数と回答大学数
- 〔3表〕 大学群別, 該当〔学部〕数と回答〔学部〕数
- 〔4表〕 大学群別, 回答学部数と授業科目数
- 〔5表〕 回答授業の各授業への配分
- 〔6表〕 統計学入門の授業はどの位行なわれているか
- 〔7表〕 統計に関する数理を主とする授業はどの位行なわれているか

- [8 表] 工学部ではどんな授業が行なわれているか
- [9 表] 国立大学における授業科目と授業科目群
- [10表] 授業科目数の授業科目群への配分
- [11表] 1〔学部〕 当り授業科目数
- [12表] 授業科目別, 1〔学部〕 当り授業科目数
- [13表] 授業科目の専門, 教養, その他の割合
- [14表] 専任者が担当する授業の割合
- [15表] 授業科目群 L_1 を専任者が担当している割合
- [16表] 教授と助教授が担当する授業の割合
- [17表] 学部固有学科を専攻した者が L_1 授業と L_3 授業を担当する割合
- [18表] 授業担当者の身分別の割合
- [19表] 各授業科目群を専任者はどの程度担当しているか
- [20表] 授業担当者の専攻学科はどうなっているか
- [21表] 全科目 (不明を含む) のうちで固有科目の占める割合
- [22表] 専門科目のうちで固有科目の占める割合
- [23表] 教養科目のうちで固有科目の占める割合
- [24表] 他学部の学生も受講している授業はどの位行なわれているか
- [25表] 1 授業当りの受講者数
- [26表] 授業受講者数
- [27表] 女子が受講している授業科目の割合
- [28表] 女子受講者全数——私立大学の数字は国公立大学を 100 とした場合の割合
- [29表] 1 授業当りの女子受講者数
- [30表] 女子学生が受講している授業はどの位行なわれているか
- [31表] 授業全数(a), 受講者数(b), 女子の受講する授業の割合(c), 女子受講者数(d)
- [32表] 講義のみの授業の割合
- [33表] 独立に演習をもつ授業の割合
- [34表] 授業は講義のみの形態か講義や演習の時間数は
- [35表] 教科書を使うかどうか
- [36表] 教科書, 副読本の利用状況
- [37表] 教科書, 副読本の種類